



# ハ ハ 街 道

黄  
土  
高  
原  
を  
ゆ  
く

ながたか  
かずひ  
さ

## 【もくじ】

■ はじまりはいつも銃

■ ステンバリー

■ 一五日

● 白い北京

● 電動人力車とチャイナドレス

■ 一六日

● 榆林

● 朱先生

● 楊家溝

■ 一七日

● 竜王廟

● 小麦食うぞ

● 緑化するぞ

● 石炭街道

■ 一八日

● 山の上の葬送

● ハバブレーク

● 寨子

■ 一九日

● 再要塞

● 流れに乗る

● ヤンガー

■二〇日

●もう食べられない

●百鬼夜行

■二一日

●北京点描

●ダック&ワイン

■二二日

●嗚呼懐かしのK I X

■あとがき

■おくづけ

## ■ はじまりはいつも銃

きつかけは深尾葉子先生（大阪大学・得意は中国と里山）を高槻から泉州は桃山学院大学まで送迎するという謎ミツションが発生したことで、無事終えますと安富歩先生（東京大学・二代目トンチ博士）が待ち構えていて「塩粒を撃ちだす」メリケン製おもちゃのマシガンを振り回す、のみでは飽きたらまず実射しまくりながら

「これで黄土高原で蠅を墜とすんです！」

とお叫びになる。それって次元大介（@ルパン三世）でも結構難しいんじゃないかなと思いつつ「ああマンガ・アニメでよく出てくる変態教授ってホントに居るんだ」とほっこりしていますとその銃を僕に向けながら、

「来ます？」

はいと言わざるを得ない。

なんといつても「黄土高原」などと言いますと中国の田舎も田舎、『西遊記』や『水滸伝』の世界です。

です？

いや現代でも『世界ウルルン滞在記』の舞台になり  
そんな秘境ではないですか。そんな経験、大部屋俳優  
か臺の立ったアイドルにでもならなければできないも  
のだと諦めていましたものでこれぞ渡りにシヨットガ  
ン。こう見えましても小生、売文商売も些か商ってお  
りますから「秘境帰り」といえば箔がつくではないで  
すか。北京上海なら金さえ出せばJALパックでもJ  
TBでもなんとかしてくれそうです。がここはひとつ学  
術調査という奴に

「……先生方行く目的はなんですか？」

「里帰りみたいなの」「うまいもん喰いに！」

「はあ」

今ひとつ要領を得ない。

が、行つて帰つたあとではよくわかります。

素敵な旅でした、どれぐらい魅力をお伝えできるかはわかりませんが、どうぞ一席お付き合ひの程を。

## ■ ステンバーイ

ということでは日程やチケットは全部深尾先生におまかせして僕はポケーツと出発の日を待つばかり、下調べなんかWikipedia様に丸投げさ。

『黄土高原は、中国を流れる黄河の上流および中流域に広がるでっかい高原。』

オツケーイ！

ちようどたまたま友人の博士、こいつがまた三八で国立大の教授（しかも数学）に抜擢されるというイカ

れた野郎で、世界を飛び回りマイル余つてしようがない、その彼とあとフロリダに一〇年住んでた小児科のドクターとで呑む機会があつたので訊いた。

「今度中国行くんだけど何か持ってつた方が」

「ムワアスク！」

懐かしいジム・キャリーの顔芸付き。

「あのかな半端やないから。サージカルの医療用のN95とかN99とか」

「マジすか」

「一箱。あと得体のしれない店で飯食う時に食器を拭

くための除菌ティッシュ。ちゃんと『除菌』て書いてるのじゃなきやダメよ、ただのウエットティッシュじやダメだから！」

「日本が潔癖になりすぎてるのそれとも向こうが魔境なの」

「どつちも」

ということとで慌てて近所のドラッグストアに走るとまあこのご時世ですからマスクはなんぼでもあるのですが、除菌ティッシュが意外と見つからなかつたですね。いやあるんですけどあのプラスチックのでかい筒

に入ったハンドリングの悪いのとか……結局ローソンで買いました。

僕ローソンで物買うの嫌いなんですよ、一〇〇%

「ポイントカードはお餅ですか？」

って聞かれるでしょう。僕お餅は生命の危機を感じるのであまり好きじゃないんです。正月のお雑煮にも入れないでって言うぐらい。

さて日程がメールで来ますと八月一五日から二二日までの八日間。最初と最後は北京泊で最後の前が夜行列車車中泊、現地四泊のたつぷりスケジュールです。

さすがにそんなに余裕があると調査研究のある先生方はともかく僕は暇になるかと思ひ、文庫本、CD、携帯ゲーム機の三大暇つぶしグッズを脳裏に思い描いてハツと

「iPhoneあるやん」

と気づいて、なんだかいい時代なのかそうでもないのかわからないですね。

よく欧州へ旅行に行く友人は最早（セルラー付き）iPad無しでは行けないと言います、スマホでもいいのですが、大きな画面でGoogleマップで日本語で読めるのがでつかいんですよね。そういえば最近日本に來ら

れる外国人観光客の方もよくタブレットをお持ちです。彼らはあんまりこだわりのないのかそのまま写真撮影までされてる姿よく見ますね。

てなことでiPhoneどうやったら使えるのか調べました。

ウチauなんですけど、どうやら通話はそのままローミングしてくれて使えるみたいです。ちよつと料金が高いみたいです。まあほとんど使わないだろうし。

問題はデータ通信、つまり一般的にいうところの「インターネット」なんですけど、これが「データロ

「ミングエリアなら」二九八〇円／日とのことで中国はエリアに入ってますのでつまり一日三千円払うと繋がりますよ、と。

ここで初めて海外飛び回る人達が「SIMフリー iPhone」を欲しがる理由がやっとわかりました。ざっと調べたところ現地でSIM買って挿した方がはるっかに安いですね。

こういうのって「旅慣れた」「ガジェット好き」に聞くのが一番手っ取り早いのですが、僕の周りには「どちらか」の人しかおらず、いや、一人居るのは居るのですがこの人が王道は決して歩まずSONYのイギ

リスで売ってる日本で売ってないちっこいスマホとか  
使いこなして悦ぶヘンタいや上級者で……デイトレー  
ダーでもないのに液晶九枚前にして仕事してる人です。

保険も掛けました。最近はもうネットで通販で決済  
カードで手元でプリントアウトしたのが証書になると  
いうお手軽さ。

おすすめプラン八日間で三四七〇円でした。ちなみに  
損保ジャパン。だいたい大手どこも似た価格になり  
ます。

あ、もちろんパスポートの有効期限確認は忘れてま  
せんよ。四年前の僕はもう少し髪があつて……

衣料は八日分ですが男旅ですし旅先で三ツ星レスト  
ランやオペラ鑑賞に行くわけでもなく、出身の中学高  
校が合宿の好きな学校でしよつちゅう行つたのでコン  
パクト・パッキングはお手の物。ボストン一つとリュ  
ック一つにまとめました。

実は地味にこれが役に立ちました。三人で移動する  
時でも、向こうのタクシーが日本で言うコンパクト級  
が多くてすぐトランクが一杯になり、よく車室でボス

トン抱えてました。あれスーツケースだったらどうな  
ってたことか。

今回のお供のカメラはSONYのRX100です。二八ミ  
リ始まり三倍ズームのコンパクト機ですが、一インチ  
センサーで画質には定評あり。母が持つてるZEX-7  
(ミラーレス一眼)を借りようかな、とも思ったので  
すがヘビーな旅になってカメラに振り回されるのも嫌  
ですし、黄土高原というからにはきつとサラサラの砂  
で湾岸戦争の時戦闘ヘリが砂で故障しまくって俺たち  
整備兵が苦勞させられたようなことにならないとも限ら

ず、コンパクト一台、とiPhone5のカメラで。

結果から言うのと借りて持って行っても良かったかなあ、という感じですよ。でも砂で壊れるのは本当らしく、安富先生も壊したことがあるそうです。深尾先生は故障に備えてコンパクト機を何個も持って行くそうよ。旅の途中で知り合った方も、防水防塵のアウトドアモデル使っていました。

砂は本当にパウダー状で、僕は通気性のいいスニーカー履いていったのですが、毎日足が粉っぽくなつて閉口しました。あまりに細かいのと湿度が低いのでジヤリジヤリして不快ってことは無いのですが、旅行さ

れる際は除菌でなくともウエットティッシュをお持ちだと捗ります。

そんな日々を送っていますとこれまた阪大で上田皖亮先生（カオスの発見者ですよ）が講演される際、運転手を仰せつかるといふ光栄に浴したのですが、懇親会にたまたまカオル君というナイスガイが来られていて彼も黄土高原経験者で、

「何か持ってた方がいいものありますか」

「夜は寒いので長袖かな」

「中国語とか勉強しました？」

「しようと思っただけでできなかったよ。でもまあなんとかなる」

「ですよー」

ということとで中国語のマスターは早々に諦める。だいたい世界中どこへ行っても

「メシ」「風呂」「お小遣い」

の三つを知っていれば生きていけると名作『スキージャンプ・ペア』で学んだので、それだけ覚えておこう。

ニーハオ、シエシエ、ザイチエン！

●白い北京

さて出発日。

集合は関空。早く着いたので「サンマルク」でお茶しようとしみますともう国際色豊かで飛び交う言葉も様々です。

合流、チエツクイン後「がんこ」でお寿司とおうどん  
んで日本食に別れを告げて、いよいよ出国……の前に

出発案内の（おそらく日本人の）中国語がもの凄いらしく両先生ズツコケてました。ま最近、軍人でも非正規労働ですからね、Googleの翻訳を初音ミクにしやべらせてないだけまだマシということで……いやそつちの方がマシな時代がすぐ来ますねえ。やっぱり雇用問題の解決にはベーシックインカムしかないんじゃないですかね。

飛行機はChina AirのエアバスA321。アテンダントのサーブイスは超大雑把で枕と毛布の数が足りないなど、日系企業慣れしていると信じられない所業に思わず

機上から文句ツイートして「飛行機で使うな」と炎上しそうになりますが、ここで早くも中国旅行が楽しくなる魔法の呪文が安富先生から発せられました。

「あれ幹部の息子や」

もちろん共産党の。そりゃあもう「幹部の息子」ならしよがないですよ、なんとたつて幹部の息子ですから。日本だつて政治家の息子しか政治家になれない国ですからね。

東アジアで民主主義たぶん無理だ。

でもこれ大変便利な言葉で、この言葉さえつぶやけばたいていのことは腹が立ちません。だって幹部の息子だもん。

男女機会均等が日本より遙かに進んでる（というより日本が異常に遅れている）中国で娘じゃないのは、短い旅の範囲内ですが女性の店員さんなどで「えーっ」て方はおられなかつたです。ライオンの狩りを見てわかりますように女の人のの方が基本的に実務能力高いですから、逆に言うると男って鍛えないところなもんなんだな、と思いました。

しかしChina Airのいいところはメシとビール。トンカツと餡かけ白身魚のセレクトダブルだったのですがどちらとも美味しかったです。副菜や炭水化物のヴォリュームもたつぷり。

ビールも「燕京」(YAN JING BEER) というブランドで、ほぼ常温にも関わらず味わいしつかりでなかなかのもの。というより、海外慣れしてる人が口を揃えて言いますけど日本のビールがキンキン冷やしに特化され過ぎてて変なガラパゴス進化してるんですよ。

「常温でグビグビイける」のをウリにするビール売れば売れるんじゃないかなあ、コンビニでも「常温飲み

物コーナー」できると時世ですからね。

わたくしも長い準備期間中惰眠を貪ってばかりいたわけではございません、旅のお供に『るるぶ北京』は買いました。

広げて予習をしようとするのと深尾先生が

「アイヤーこれいろいろ載ってるわねー」

「えっ、先生中国の専門家じゃないですか」

「北京ウロウロしないから」

「あそうなんですか、よかつたらどうぞ」

「……あ食べる所いっぱい載ってる。便利ねこれ。今夜ここにしようかしら。あこつちもいいわね。迷うわー」

なぜウロウロしないのかはすぐわかるのですが、その時は「確かに僕が大坂案内を頼まれてもたぶん『るぶ』の方が詳しい」ぐらいに思っていました。

そうこうしてるうちに三時間ほどで北京着。着陸準備が始まる機内で

「僕友だちに聞いてマスク持ってきたんですよー」

と両先生の方を見ればもう装着してるー！ 安富先生  
に至ってはマイケル・ジャクソンもかくやの白手袋ま  
で。

「手袋まで要りますか」

「何触らさせられるかわからんぞ」

「ひいひい」

でもきつとお二人は僕にドッキリでも仕掛けてるん  
だろう、と思った僕は着陸してデッキリ歩いてる時点で  
ドッキリしてました。

真つ白なの。

超スモッグ。

一三年は特に大陸由来らしきPM2.5が話題になりましたのでニュース映像などで「中国各地の大気汚染」なんて霞がかつた映像をご覧になった方も多いかと思いますが、あれですあれ。あれスペシャル・デイではなくてあれが日常。あれが毎日。

後日その恐ろしさを友人の父上に語りますと、

「ああ一九七〇年前後の四日市なんか、そんな感じやっただ。駅降りるともう視界は霞んでるわ石油コンビナートの変な匂いはするわ」

歴史は繰り返しますね。

人類は愚かだ、というよりも、同じ条件が揃うと同じことやっちゃうということ人で人種や時代に関わらず人間は人間だということ。

「Sightseeing?」と聞かれたら答えを「No, Combat.」と「サイドビジネス!」で悩むのがオタク道つてものですが残念なことに聞かれもせずは無事入国、空港まで王傑さんという中国人研究者の方が迎えに来られていると。

名前からして関羽や張飛のような豪傑が美髯をしご

きながら青龍刀を肩にかけて待ち構えているのかなと思いきや、にこやかに手を振って待つてくださったのは文学少女がそのまま研究職に就いたような、いかにも文化系インテリ女性。

日中で同じ漢字に対するイメージがまるで違う好例でした。

普段「地獄のように並ぶ」タクシーに今日は比較的にすんなり乗れて四〇分ほどで北京市内へ。

タクシーはヒュンダイばかり。しかし車窓から見る路上は高級車and/or新車のオンパレードで、日本の

風景とは随分違います。もちろん「オンボロがボロい」のは経年車に対する車検と法が懲罰的に厳しい日本以外の国の共通で、骨と皮だけになったスズキ・アルトがベンツやポルシェのピッカピカに黒光りするSUVの間を健気に走ってる姿を観ると、御年八三になっても軽自動車を潰さんと画策する米自動車業界やそれに乗ろうとする財務省を始めとする高級官僚、提携しようとしたら約束をまるで守らないVWグループなどなど内憂外患と激しく闘う我らが鈴木修CEOの姿そのままであり涙が溢れて止まりません。

おさむちちゃん頑張つて！

ミニバン見ませんねえ。北米と中国つてだいたい同じで「だだっぴろい道路をただひたすら走る」「大きいのが大好き」で腰だめの印象論ですが世界の七割がたぶんこの二国で占められており、つまり世界中のメーカーがこの「米中市場」みたいなものにターゲット合わせたくルマ作ってます。

僕昔、先代トヨタ・カローラが世界百数十各国で売られるワールドカローラから分離され旧型改良のドメドメ（ドメステイック・ドメステイックの略造語。便

利なので覚えて使おう）カローラになった時

「そんな欺瞞はいかん！ ワールドを買ってもらえるように説得するか、栄光のカローラの名を捨てて別のクルマとしてゼロから出発するかどちらかだ！」

とトヨタを叱り飛ばしたことがあるのですが、どこでつて心の中ですか、ごめん僕間違っていました、日本市場なんてニツチにわざわざ専用車作ってくれるトヨタ自動車万歳、万歳、万歳。いつまでも三河に本社置いててね。あれお台場とか行くと新車発表会に開発陣揃いのブレザーで出てくるような気色悪い会社になってそんな三河魂（ルビ・サムライスピリッツ）忘れてし

まうと思うから……

何言おうと思つてましたっけ、あそだ北米と中国の違いはミニバン（あとピックアップトラック）があるか無いかじゃないですかね。時間の問題？ いや一人っ子政策があつたからどうだろう……あれ一回乗らなると便利さわかんないんですけど、乗るチャンスつてある夫婦が「子どもと親を乗せる可能性がある」つて数年間の瞬間だけなので……とまれ箱車ばかりウロウロしてる日本の風景から観ると、けっっこう新鮮でした。

目立つメーカーはドイツ御三家の高級車、VW、フ

オード、ヒュンダイ、それからシトロエンが歴史的経緯で頑張ってるようです。中国国産勢もわりとあつて、よく知らないのですがどのメーカーがどれぐらいまではわかりませんが、全体の二〜三割は国産車じゃないですかね。セダン、大型車（高級車とはちよい言いつらい）、SUV、なんでもありました。

日本車はだいたい少ないです、近年の関係悪化も影響あると思いますが、政治的に市場参入競争に乗り遅れたらしいですね。

まあただ政治マターは、当たりやでかいですが外れた時会社潰れるので機会逸失覚悟で静観するのは悪い

選択ではない、と僕はSHARPで教わりました。

あの会社「昔は」ですが規格策定とかに参画「しない」という徹底した弱者戦略取ってまして、なぜというなら規格戦争になった時にしがらみがあると泥沼から逃げ出せないからで……いやもう昔日の栄光は忘れましようや、日本メーカー同士が世界を巻き込んで火花を散らした日々があつたなんてことは……

ホテルは「ASCOTT」というロケはビジネス街ながらかなりいいホテル。長期滞在型の一リビング三ベッドルームの高級ホッテールで、しかしそれが一人あた

ま日本円で九千円ぐらい。このタイプは、多人数で行かれる時はオススメです。リビングで宴会できますし。

このお部屋は「ステルム奥にバス・トイレがあり、2nd/3rd/LD用のバス・トイレが共用で玄関横、そしてキッチン脇に召使用の簡素なトイレ&シャワー。いやあ外国来ましたね！」

「あつコスメがロクシタンやで。持って帰れ持って帰れ」

「そんな河内のおっさんみたいな」

「河内のおっさんや」

まあ小瓶入りなのでお持ち帰り前提ではあるので持つて帰りました。僕もそろそろ河内のおっさんです。

「わーこれ便利デスネー！」

王さんの手には『るるぶ』。王さん北京人ちやうんですか。

王さんはつい一昨年まで都合九年半も日本に留学されてたので（しかも大阪市立大学が長かったので僕の家のおすぐ近くに下宿されておられたことも）日本語が

ペラペラなのです。

女性陣が『るるぶ』で夕餉の品定めをしている間、僕はホテルのMEETINGと格闘してました。繋がるはずなんですけど繋がらない。ま、よくあることです。そういう時こそネット断ちですよ健康になりますよう健康に。

## ●電動人力車とチャイナドレス

何店か目星を付けて、あとは歩きながら予約という

か空席を聞く感じで北京の街をそぞろ歩く。

安富先生はATMを探して走り回る。あ、しまった、空港でもホテルでも何も両替してない。

特殊な旅だったこともあったのですが、僕結局今回の旅でお金の両替しませんでした。この時のレートは一元約二〇円。どんどん元高になってるそうです。

それはともかく北京は……人多かったツス……なんだろう、たとえば休日の渋谷とか物凄い人と人口密度ですけど、それぞれがそれぞれの目的や方向を持って

て、そういう「粒」がたくさんある感じでございませう？　なんか北京は「流れ」なんです、人の河。どういう方向にどういう意味合いで流れているのかまではわからないのですが、信号が変わるとみんな同じ方向に一齐にザ・ザーツと……

高度経済成長期の日本もあんな感じだったんですね。

しかしまさに生き馬の目を抜く世界の中心、まさに「中華」、一〇年前の最新の建物がもうボロ扱いで、もつとピカピカのに中心が移つてるとかなんとかかん

とか……六本木ヒルズでできたのいつでしたっけ？

つか道路そのものが長江もしくは黄河ですよ。

滑走路みたいな、いや僕ソウルのあの滑走路になる道路も歩きましたけど、あの比ではない超幅広道路にクルマがカワイルカのようにブーブーと……

自転車なんか居ませんよ！

あんな天安門広場を銀輪煌めかせて人民服着た皆さんが出勤してるような、あんな光景もうどこにもない！！

ようやくお店に目処が付いてちよつと距離があるつてんで我々の選択した交通手段は電動スクーターの引く人力車？ いやトウクトウクとかともちよつと違う、そういう他ないような簡便な乗り物で。

二台に女性陣男性陣で分乗してここ行つてくださいっていうと猛スピードで走りだす。そんな日本みたいな電動「アシスト」で「人力を超えないアシストしかない」なんて生ぬるいものじゃないですよ。エレクトロ生パワー炸裂推定四〇キロは軽く出てますもちろん横転でもすりゃ全員死ぬ。

超スリル。

インド映画のアクションシーンぐらいリアルスリル。つておおい深尾車止まってるのになんで爆走し続けるねーん！

でも安富先生が何事か叫ぶと一八〇度急ターン。だから死ぬって、横転したら。

「何て言ったんですかー！」

「こつち金持っていないからあつちとはぐれると金払えないって言ったー！」

さすがです。

都会のみならず田舎でも中国ではこの「電動スクーター」が大普及してまして、むしろエンジン二輪は日本で言う二五〇以上の中大型車種ばかり。

短距離・頻用でその気になれば電池パックの持ち歩きもできなくないスクーターこそ電気駆動にうつつけどだと思いますし日本の三メーカー（Kawasakiは方針としてスクーターはやらない）とも色気はあるみたいですが肝心の日本で市場が動かないのは電動アシスト自転車に先に流行っちゃったからですかね。確かにあれあればスクーターのかなりの部分をカバーしちゃう

んですよね。あれで足りない用途になるとスクーターでも足りなくて軽でいいからクルマ欲しいな、みたいな。

よく言われることですが世界中がグローバルと細分化ローカルの時代でございます。

そんな冒険の末辿り着いたのはなんと大使館街の真ん中にある超・高級料理店。待ち合わせた北京大学の夏先生（災害史が御専門）とその教え子これまた王さん、満州族の超美人ただし既婚、合わせて六人でこれぞまさに「中華」料理をいただきました。

まったくクドくも重くもなく、あつさりしつつ滋味深く。メニュー？ わからん！ 写真？ 見てもわからん！ ような料理ばかりでした、炒飯とか酢豚とかじゃなくて。あ酢豚あつたかな、とにかく美味かった。

食事後は隣の丸テーブルに移動してチャイナドレスの美女がサーブのお茶タイム。向こうのお茶って凄いですね、急須が小さめと言っても一〇回転ぐらい平気で出るんです。品種でも違うのか製法が違うのか。何種か淹れてもらったのですが、プーアル茶が美味しかったです。プーアルの埃臭さみたいなのがなくて、と

つてもスツキリ。さすが本場。

しめて日本円で三万円ぐらい。一人五千円でチャイナドレスのチラリズムを思う存、いや、えー、中国茶を思う存分楽しめたと考えるとリーズナボーなんです。がもちろん北京では超高級扱いです。両先生も

「今日は食べれたねー」

「北京で初めて旨いもの喰ったんじゃないかなろうか」

と口を揃え……ホンマですか。

「いやもうヤバイよ北京は旨いとこ無い」

「もつとヤバイのは日本の中華料理、ある時……」

例示して下さったお話はここでは書けないホラーでした。料理界も闇深いですね。

それはともかく、中国って巨大なので、我々のイメージする「中華料理」ってあれ各地のいろんな要素を適当に組み合わせたのちジャパナイズした土着料理です。ね、あらためてドヤ顔で言うまでもなく皆さんご存知かと思いますが。

その点韓国料理だと日本で食べられるものがソウルで食べられたりするのですが、あれもひよつとすると観光客向けに「韓国料理っぽいもの」かもしれない。

「本物」ではなく「本物っぽいもの」が喜ばれるのがこのプラスチック世紀、ファンタよりファンタ味！

帰りは中国勢と別れて三人、そのような官公庁街だけにタクシーが通ってなくて難儀しました。お店に頼んだら「（タクシーは）来ない」とか言うの。なんじやそりや。なんか規制でもあるのか。

と、トボトボ歩いてましたら流し一台発見。こうい

う緩いところがありがたい。

お部屋に戻って洗濯機の動かし方で三人で苦闘しました。

電機メーカー勤務歴三年とじつちゃんの名に賭けてなんとか動かしましたが、UIがまるでわからない。なんか「乾燥だけ」ってモードが全自洗モードの先にあるのよダイヤルの先に。たぶん。

日本の消費者の皆さんやれ最近の家電はわかりにくいつしやりますけどそんなあなた方にはシーメンスの家

電を差し上げよう！

ドイツ！　ドイツ！　ドイツドイツジャーマン！

よくこんなもので我慢してるなやつぱゲルマン人で  
マゾなんじゃないかなWindows8の方がまだマシ……  
いや、どっこい……いや、Win8ほどではないかな一度  
理解すれば使えないわけではないので……

しかし数日後またシーメンスと闘う羽目になるとは、  
この時ながたは知る由もなかった！

ダブルベッドを占領してぐっすり寝ました。

■一六日

●榆林

○八四〇予定だった飛行機が一二〇〇になり、朝五時起きが無くなって余裕ができたかと思いきや旅というのはそんな単純なものではなく、今日飛ぶ榆林で待つてくださる方に遅くなる連絡する必要が生じるのだがEtherの線挿してもネットが通じない。

フロントに窮状を訴えるところそのEtherの口に挿すWi-

インターネットを貸してくれて……えー……それでは問題解決しないんじゃないかという予感がビンビンと……

……あれ、通じた。

お相伴に預かってワタクシのアイフォーンも接続してみますとおお懐かしいYahoo!のトップにあいもかわらぬ厳選されたくだらないうニュースが並ぶ。

Yahoo!のトップはホント硬軟とりまぜ不偏不党（であろうとする努力が見られて）読みやすいですよ。

一応「ジャーナル」なんですよ。Infoseek楽天やMSNは「まとめサイト」で、コンセプトから違う。このデ

スクを雇うのに孫さんお金使ったんじゃないかな……  
てソフトバンクは出版もあるじゃん、そっち方面のベ  
テランの方かな？

あ！ でもtwitter通じない！

Facebookもー！ 噂通り！ スゲー！ 「1984」だ

「MATRIX」だYahoo!

なんだか世界史の中に居るって感じ。

隣では安富先生が機種変更したてのはじめてのスマ  
ホに発狂してました。名誉のためにブランド名伏せま

すがArrowsです。

「使いにくい！」

「なんでこの機種にしたんですか」

「安かったから……」

「二年苦しんでください」

「ウゲー」

気合い入れた旅の時ほど身の回り品いつもの持つて行った方がいいんですけど思わず服とか靴とか鞆とか新しいの買っちゃいますよねー。

飛行機遅延のおかげで食べられた朝食バイキングは中国名物おかゆがとても美味しかったです。なんでしようね、ダシで炊いたりはしてないと思うのですが（別に掛ける餡みたくないものはある）、お米の質の違いでしよるか。

乳製品はNZからの輸入品なんかだったのが印象的。すでに中国は食料輸入大国なのです。おかずも何でも美味しかったです。ワンタンスープとかさすがにイケてましたねえ。もちろんお高めのホテル、というのもあるのでしょうか。

なんてバタバタしてましたら時間ギリギリ、タクシ  
ーの運ちゃんに飛ばしてもらいます。聞けば北京近郊  
で農家もやってるそうで、昔を懐かしみながらも、人  
生楽しそう。

結構急ぎ足でチェックインしましたら、ここでまた  
飛行機が遅れてまして、「こうでなくっちゃ」て感じ。  
王傑さんと再度合流。ようやくアナウンスがあつて飛  
行機までバスで移動なのですが異様に長い間立ちっぱ  
ぎゅうぎゅう詰めで乗りました。

北京空港巨大なんでしょうね。

TAXIWAYでも順番待ち長く待たされて結局離陸は  
一三三〇頃。機種はブラジルの誇るエンブラエルE1  
90。

僕子どもの頃航空ファンだったんですけどエンブラ  
エルなんて「聞いたことあるかなないかな」レベルで  
した。調べると九〇年代前半には潰れかけてたんです  
よね。それが今や世界四位の航空機メーカー、三位ボ  
ンバルディアを追い落とそうかという勢いです。投資  
会社への売却による意思決定の高速化と的確さ、それ

に仕込んでいた作品が大ヒットした相乗効果の模様。そういやJALも破綻・処理後人が変わったようにというか人が変わったわけですが絶好調で、経営つて難しいのか簡単なのかよくわかりませんね。

初搭乗ですが実際小型機のわりには幅高さとも広々した室内で、感心しました。すつごい人詰め込めますしね。

今回僕はちよつと確認できなかつたのですが、先生方によると空から見る北京はスモッグドームで覆われているそうです。二〇〇〇キロぐらい離れると晴れ渡つ

て、また次の地方都市がドームごと現れて……まるで『首都消失』ですね。僕あれいつも『日本沈没』とごつちやになるんです、同じ左京先生ですし……

しかし北京そのものは重化学工業地帯でもないはずですし（ちっちゃい工場は北京五輪の時どけたそうです）、自動車は平均車齢でいうと日本より若いんじゃないかという、それもワールドメーカーのものが多くです。ですからそんなに酷い環境性能でもないはずですし、この深刻な大気汚染の理由が私のようなものにはわかりません。一説には政府首脳に石油利権握ってる者が居て、それが中抜きして粗悪燃料が市中に出回るから

良くない排出物が……

ともあれ、本当に健康に良くないです。

正直友人が「観光で行く」というなら止めるレベルです。まして留学なんでもつてのほか。よほど中国文化系の何かに子供の頃からコミットしてるとかでない限り。

安富先生がよく

「中国人（の金持ち）日本に呼んできて美味しいもん食わして金落とさせたらええんや！」

とおっしゃるので、それホントに腑に落ちまし

た。僕ちよつと田舎へ引つ込むと「空気キレイだなあ」と思っちゃう大阪市民ですが、そんな大阪ですら、北京に比べればエア・ヘブンです。

僕が子どもの頃、SFで汚染され尽くした地球で防護服みたいな着て生活する未来予想図って割と普通にあつて、おつかないなあと思つたものですがまさか自分が空気清浄機回しっぱの部屋に住んでペットボトルの水飲むとは思いませんでした。

地球はこれからどうなる！

と憂鬱になつてましたら一時間ほどで榆林に着きま

した。

榆林は（日本人）留学生を呼ぶのに熱心な土地で、日本人にも意外とお馴染みの地らしいです。方角は北京から西ちよい南、古都西安の北ほんの少し東にあります。北は内モンゴル自治区、西は寧夏回族自治区。

顔馴染みのドライバーの方の中国製SUVに乗せてもらいまして、日本で言うところの堂々のプラド（トヨタ）とかあのクラスだと思っておりますが、見て触れて多少言いたいことは無くもないですが普通に走ってて乗り心地も良かったです。ハンドル握ると違うのかもしれない

せんが。クルマも中国勢が世界を席卷する日が来るのか来ないのか。

日本でも中国車は走らなくても中国製のはたくさん走りそうです。もうタイ製の日本車ならびゅんびゅん走ってますよ。

市内中心地の平たいレジヤールビル……高度経済成長期の日本の遺構でいまもわずかに見られます、三階く四階建てぐらいのファサードの平たい建物に銘々のテナントが入っているタイプの。イメージできますです？

あれが中国地方都市では標準スタイルの「盛り場」のようでした。たぶん日本のように「駅」というセントラルに集まる必然性が薄いので、高層化とか過度の集中化が必要ないのでしょう。土地広いですしね。

でも高層でしたよマンションとかなんかビルとか。作りかけのいっぱいあつて中見えてるんですけど、日本人建築関係者なら間違いなく卒倒するほどスツカスカです。

今の日本で建売りでも建ててるところ見ますと気が触れたように柱とか筋交いとか入りまくってほとんどマ

ツチ棒を並べて家の模型作るがごとく木材を林立させて建ててますが（そのわりに壁はぺなっぺななんですよね、あれはなんでしよう？）こんな地震来たら…

「あ、そうか大陸だから地震が少ないんですかね」  
「とても、多いですよ。」

日本に、負けないぐらい。

歴史上、たくさん、たくさん、シンデマス」

後日先述の夏先生の弟子の方の王さんがニッコリ笑

つて教えて下さいました。

まあ高度経済成長期は人の命より金の方が大切な時期ですから……

さてお昼は、昨今は日本にも進出して食べられるようになりました中華圏伝統料理「火鍋」のお店「小肥羊」（シャオフエイヤン）で会食。白湯と麻辣、白と赤二種類のスープにお好みの具材を手元鍋にそれぞれ自分でしゃぶしゃぶするというスタイルで、これがまたたいへん旨い！

羊の肉といますと日本では北海道ジンギスカンス

マイルがすぐ思い浮かび、あれも最近では生ラムが当たり前になつてすこぶる旨いものですが、こうして薄切りをしゃぶしゃぶ風でも野趣があつてよろしいです。

ジビエもそうですが元々獣肉つてもものには獣くささつてのがあります。それにかぶり付いて

「うやーっひやっひやっひやっひやっひやっひやー！ 俺の獲物だぜえー！」

と悦ぶのが正しい原始人というものではありませんか、たまにはマズローの五段階でいうところの……御託はええわ。

ごまだれが美味でした。

これ外国いくたび思うんですけど外国の野菜とかスパイスとかは大変パンチが効いてて、というか、日本のそれらが異常に水っぽくて物足りないですよええ。

まあウチの弟とかパクチーはもとより大葉でも三つ葉でもダメな人なんで、日本人「香り」に敏感すぎて対応しきれないのかもしれないかもしれませんけども。

私「鼻っつん」（「はだがづばってるひど」の大阪弁。やばせばびです）ですのぞノー・プロブレム、たいへん堪能いたしました。

とにかく心齋橋始め日本にも支店があるらしいので、

一度日本でも行ってみたいです。

「でもやっぱり日本のお店とはだいぶ違うよ」  
そりゃそうですよね。

当地の名門大学・楡林学院のえらい先生方と、日本から来てた研究者の松永さんとお会いしました。安富先生がまた話の流れで僕を間違って「アニメ関係者」みたいの説明してしまい、

「土地があり余ってて環境も最高の楡林に人材を集め、ジブリのようなアニメスタジオをつくらう！」  
というような壮大なプロジェクトの青写真がどんどん

描かれて脂汗を盛大に掻きました。

ゲーム屋とアニメ屋は近いようで遠くてですね。サッカーと野球よりは近いけどアメフトとラグビーよりは遠いかな。

どうでしょう？

家電屋と電設業界の違いの方がわかりやすいかな、わかりにくいですね、えーつとじゃあ住友銀行と住友信託銀行の仲の悪さから……

## ●朱先生

楡林に立ち寄った最大の理由はこれ、「緑聖」朱序弼さんの訪問です。一二年一一月にはNHK『地球イチバン』でも紹介された、黄土高原の緑化に文字通り人生を捧げた英雄です。安富深尾両先生は以前からお知り合いとのこと……

と、ここでききなり驚愕したのは、肝心のその朱老人の粗末なお家（朱さんは本当に何も欲しがらない方で、何か貰うと特にお金だと、すぐ苗なんかにしてしまおうそうです）、の周りがズタズタに開発でハゲ散ら

かされていたこと。これには両先生も絶句されてました。

ほんの近傍まで大きな道路が来てて、宅地なりなんなりに開発するのですが、なんとというか、個人ではいかにその人が偉大でも止められない、時の勢いのようなものを目の当たりにしました。

朱老師はお言葉悪いのですがもう歩くのもわりとヨレヨレでいらつしやるしお言葉もモゴモゴしてらつしやるのですがしかし、ああいうのつてオーラつてもものがありましたね。

予備知識無しでその場に突然誰か来られても、「この人物が主役！」とすぐわかると思います。もちろん周囲の我々も最大限の敬意を持って接するわけですが。桃と西瓜をたくさんいただきました。謝謝。

当地いや北京でも、果物を事あるごとにバリバリ食べまして、特に夏は西瓜。乾燥してますから、水分補給も兼ねているのだと思います。（皆さんお茶もガバガバ飲まれます。日本人よりもあるいは飲んでいるかも）品種的もあまり甘くなくて、食べやすかったです。いま日本の果物はちよつと甘すぎますよね。僕子ども

の頃みかんなんざ一日一〇個とか平気で食べたもんですけど、今絶対無理です。

僕はたぶん、こういう篤志家といえますか、教科書に載るような「社会や共同体のために（明示的に）人生を費やした方」と間近でお会いしたのは初めてでしたので、なんといいいますか、たいへんムービングでした。ああいう時、人は自然に手を合わせますね。いや仏教圏だけの習慣かもしれませんが。

握手してもらいました。

少しはマシな人間になれるかしら。

もう少し旧交を温める一団から別れて僕と王さん、それからターロン（これからお邪魔する楊家溝ホスト・ファミリィのご長男。今は街でお仕事をされている）の三人で「綏徳」という駅まで帰りの北京行き夜行列車の切符を取りに。

これぞ黄土高原流「行き当たりばつ旅」で、事前予約などを最小限にしてその都度その都度紡がれる

「縁」によって行動すると物事はどんどんいい方に回る、という作戦。

榆林学院の偉い先生に綏徳の駅長さんに頼んでもらうとちようどいいかんじの切符が手に入る、まさにコミュニケーションの魔法。

……と、後ほど友人の鉄っちゃんに語りましたら

「ああ国鉄時代は日本にもあったのよ車掌裁量・駅長裁量の切符が」

「へー」

「基本は慌てて切符無しで乗る人なんかのために開けてあるんだけどね」

「どんどん社会からバッファが無くなつてギスギスし

ていきますなあ。スムーズ・クリミナル。

綏徳の駅はなんといいですか山間の田舎に突如現れた近代駅舎で、そのくせ夜行も走るからか人に溢れてて。

駅前駐車場もちろん未舗装、の前に祭り屋台みたいなのが出てなにやら食べ物っぽいものを売っていたり、乗合自動車みたいなのが客引き合戦をしていたり、駅の売店では麩菓子みたいな地元のおみやげを売っていたり、なかなかアジアでした。

ああそうそう、ここでようやく「アジア」っていう

言葉でイメージする風景に出会えた気がする。

どうでもいい話ですが、ま、この稿はどうでもいい話しかないので、僕子供の頃から「アジア」って言葉のくくりの強引さにちよつと違和感があつてですね。まあそういうえば「ヨーロッパ」つてのも随分強引でロシアやトルコの立ち位置は、とかいろいろ疑問起きますんですが、確かに文化風習などで共通項とても多いんですけど共通項が多いからこそ違いが際立つという面も人間の心理にはあつて、非関西圏の人にはまったく理解できないでしょうけど京都・大阪・神戸と

いうのはそれぞれ全く別物でしてね？ 我々いや私やもう卒業しましたが、製造業の人間は「北米」ってくりをよくするんですが言うまでもなくカナダ・アメリカ・メキシコはまったく違う国で、このくりはそれに近い印象を持ちます。

でもそんな僕でも「ああ同じだなあ」と思うシチュエーションのひとつがこの「屋台で何か売ったり買ったり」という風景で、なんとなく吸い寄せられて何か買いそうになります。

昔友人と二人でソウル行った時はさつき朝飯喰った

ばつかだというのに屋台でトツポギと海苔巻きをいただいたりしました。

いや、ヨーロッパの屋台とはちよつと違うんですあれはあくまで「簡便なお店」なんですけど、アジアの屋台は行商の延長で感じて……

かなり待たされてとつぷり日も暮れましたがそこは大国・中国、三人で「遅いですねえ」「まだですかねえ」とのんびり待ちました。

タールンがどう？と勧めてくれたタバコはマルボロで、王さんがどう？と勧めてくれたキャンデイはI K

EAのPB。

グローバル世界ー。

あとで気づいたのですが、この切符は僕はともかくとして王さんにもタールンにも何の関係もない切符なのです。が、こういうところ何の躊躇いもなく行動してくるところが中国人の懐の深さだと感じました。

さて、なんとかかんとか切符をゲット、日も落ちた山道を飛ばすタールンのフォード・モンデオの革シート付いてるええグレード。クルマ好き向けに言えば

## GHIAですよGHIA。

たぶん日本で買うと三〇〇万ぐらいすると思うのですが（今モンデオは正規で入れてないのですが、トヨタで言うのとマークXとかあのへんです）もちろん新車。

「ローンで無理して買った」と笑ってましたが、つまり経済右肩上がり給料右肩上がりだと少々無理目のローンでも組んで便益先取りできるんですよ。例えば何かの拍子でクビになったりしてもまあ探せば職はあるわー、て感じで。日本でもほんの二〇年前まではあたりまえの風景でした。

世界的にこの「前提」みたいなのが崩れてきているのは事実なので、それをもう一度取り戻すようにアクションを起こすのか、その前提そのものがおかしかつたんだから新しい考え方でいこう、というのか、これは意見と考え方が分かれるところです。

僕はどつちかというと後者かなあ。

軽自動車ばっか売れたり「若者の○○離れ」みたいな話も、後ろ向きの縮小均衡ってだけではなくて、

「適切なものを適切な時期に利用する」横文字でいえばなんでもオンデマンドという考え方が進化・浸透してるとも考えられますし、二〇年前より社会の進歩超

速いので二年前のスマホなんかゴミ。(そうそう彼は携帯もiPhoneでした) そういう時代に

「いいものをそれなりの値段出して買う」  
なんて購買行動に合理性はありません。もちろん、合理性で人の行動が全部説明できるわけでもないですけれど。

山道を一時間ばかり走ります、でも人跡未踏の真つ暗闇、つてことではなくて、まあ舗装路ついてるぐらいですから当然ですけど、あいだ・あいだに村があり、ひとつの村ではお葬式の真つ最中で派手に爆竹が鳴り

響き太鼓が叩かれ提灯行列みたいなのがありました。その中を走りました。

あとそう、牛飼ってた。

まだ農村では現役労働力だそうで、そこかしこで家の庭先に牛さんが繋がれていました。ライトに照らされクルマが真横を駆け抜けても動じること無くつぶらな瞳でこちらを見るばかりでした。

## ●楊家溝

はてさて、ようやく着きましたは我らが楊家溝

(村)、日本語では普通に「ようかこう」と発音して  
いました。簡体字表記はGoogleマップで見てください。

「なんでこんな勝手に省略してんですか！」

「日本の当用漢字もそうやがな」

そうでした。

「中国の歴史が読めないようにする一党独裁共産党の  
陰謀」

という穿った見方もありますが、普通に「字画多くて  
めんどくさい」という民々の欲求ですね。しかし世は  
コンピュータ時代、日本でも姓名で「齋」「濱」

「澤」など難しい方の字を使う人やケースが増えてきました。だんだん戻っていくのかもしれない。

正直戦中までの文章って生だと（新体字への変換が行われていないと）僕みたいな専門訓練積んでない人間には結構読みづらいのです。これも日本人が専門家以外なかなか近現代史を振り返らない遠因のひとつかなあ、と思ってみたりも。それは余談。

闇の中笑顔で出迎えてくださったのはタールンのご両親である智恵さんとルオリンさんご夫婦、そしてお兄さん。ペットのイヌのファーファ（ホアホア（花

花」と表記するのが正しいようですが、僕はずつと

「お金なんかちよつとでクマ」の発音してました。ちやんと応えてくれてました)、ネコのミイミイ。

そしてもうひとつの？主役は四連の石造り住宅、窯洞(ヤオトン)。写真などググって見ていただくとよいのですが、一見山肌を繰り抜いた洞窟に見えますが、そうではなくて山肌削って作った平たい土地に石を積み上げて作るそうです。

これが中に入ると得も言われぬ安心感といいですか、普段木と紙と練り土でこさえた住居で風と光と近所の

おばちゃんとの挨拶の声と宅急便のピンポンと共に生きる我々日本人にとってはかなり衝撃的な居心地です。

もちろん夏は涼しく冬は暖かい。高原なので寒暖の差が激しく、昼はカラッと暑く夜はそこそこ冷え込むのですが、だからこそ発達したこのヤオトンは大変快適でした。

ヤオトン前には家庭菜園があり、トマトに茄子にへちまにカボチャ（棚で作る）に唐辛子、ニラにネギに……となんでもござれ。さつそくとマトを一つもいであげました。とっても美味しい。

夕食はお豆腐と野菜を炊き合わせたスープに、粟と緑豆のおかゆ。

ご当地ではおかゆをしょつちゅううただきます、むしろ「炊いた米」の割合の方が少ないかも。肉まんとおかゆ、とか、棗餡の詰まった揚げパンとおかゆ、とか、そんな感じですよ。

それから、忘れてはならないのはこれからずーっとお世話になりましたレギュラー・トッピング。五味|| すりごま・黒酢・トマトペースト・ネギ・香草入りひまわり油、これをお好きな分量お好きな割合で何にでも掛けて食べるのです。

これがまたどれもパンチが効いてて風味良し、同じ料理の目先がガラリと変わるのでまたついつい食べ過ぎる。

料理そのものの味付けは（我々日本人に合わせてくれてもいてるようで）しつこくなく塩辛くもなく、素材の新鮮さ・自然さとあいまっていくらでも入ってしまうのです。

「体に馴染む味」

とでも申しましようか。

それもそのはず、知恵さんは料理の腕を乞われて宴席や祝儀不祝儀に駆けつけるような村屈指の料理上手、

ほとんどプロ。

いやあ……美味い。

満腹満開でトイレは、おお久しぶりにボタン便所、裸電球を中間スイッチでオンにするのも懐かしい。一応ティッシュとLED懐中電灯も持ってきてきましたとも。

寝る前にはみんなで長旅で凝った身体をストレッチなどしつつ星鑑賞。わずかに残念なことなのにこの旅行中、月が大きな日取りで、お月様は美しかったのですが夜空明る過ぎて星はさほどではありませんでした、夏で

すしね。といつても、天の川はちゃんと見えるほど。  
もちろん空気は肺が悦ぶ清浄さ、北京の悪夢が嘘の  
よう。

ヤオトンは奥の方が一段高くなつてて下にオンドル  
が仕込まれたベッドになっています。冬はそこに石炭  
ストーブの熱気を送り込んで暖を取るそうです。

松永氏と二人寢床にはいりますと疲れもあつたのか  
ストーンと眠りに落ちました。

僕見てくれよりも神経質なのですが（書いてるもの

読みやわかりますね、すいません）、この旅行中は寝付きで困ったことはありませんでした。

北京はともかくこちらでは悠久の大地、頑丈なヤオトン、そしていくら吸い込んでも肺が耳鼻咽喉がイヤを起こさないきれいな空気、が効いていたのかな、と思います。

あ、ネット見てなかったからかな……

参考文献としてこちらを。

『楊家溝村日本人結婚式の経緯』 深尾葉子・安富歩

<http://individuals.iii.u->

[tokyo.ac.jp/~yasutomi/hunli/index.html](http://tokyo.ac.jp/~yasutomi/hunli/index.html)

こちらに僕らが泊まったヤオトンの模様やホスト・  
ファミリーの皆さんのお写真も。

実はこの企画の新婦さんのお里のうどん屋さん（大  
阪八尾）には、私一時期毎週のように通ってました。  
縁は奇なもの味なもの。

## ■一七日

### ●竜王廟

朝は六時半自主起床、外に出ると空気は一層静逸ながらさすが農村、もう既に人の活動の気配がそちらこちらで。

朝の散歩はお兄さんに連れてもらって、松永さんご所望の小高い山の上にある祠、「竜王廟」へ。深尾先



ゴロウさんになる。

「よーしよしよしよし、よおーしよしよしよし」

日本語通じないのかおとなしくなってくれなくてです  
すね……

当然散歩の習慣が無いので日本で見かけるようなり  
ードというようなモノはなく、適当な紐も無かったの  
で鎖そのまま、僕が持ちました。

犬の散歩久しぶりだなあ。

昔、父がプチ出世した時に「夢やったんや」と血統  
書付きの柴を買ってきたんですが、当然父は仕事行き  
ますので散歩家族で交代でやりました……面倒でした

わ（笑）

あれ犬派猫派ってよく言いますが、それよりその家に散歩文化があるかないかがクリティカルだと思います。無いか散歩そのものに価値を見出さない家族に犬くるとその犬か家族かあるいは両方が不幸になる。

死ぬ直前までちゃんとほぼ毎日行きましたよ!!

うんち袋持って!!

僕は菊池寛先生ではないので父に恨みはほぼ無いのですが、あの犬もらってきて散歩丸投げしたのだけは今思い出しても勘弁してくれと心底思います。

それはともかく。

つまり基本番犬もしくはインターホンであつて愛玩担当ではないのですね。

「そんなの動物虐待じゃないか！」  
といえはそうではなくて、先代が亡くなつた時（彼の名もフアーファだつたそうです）一家で悲嘆に暮れてご飯も喉を通らなかつたそうで、まあ文化的な差異つてのはなかなか消化が難しいものです。

超喜びでジャンピング・ラッシングのフアーファを「どうどう」言いながら歩くこと一〇分ほど、そこから山を登ります、山と言いましても普段から農地とし

て地元の人々が活用してるものですから道も付いててその傾斜も手頃、そりゃこんなところ毎日昇り降りしてれば土地の皆さんのスタイルがいいのも頷けます。

この「米脂県」という地方は日本で「秋田美人」などと言いますように美男美女で有名な地方だそうで、「米脂的婆姨、綏徳的漢」と讃えられるそうです。昨日駅に行つた綏徳もすぐ近く。

確かに男性は筋肉質逆三角形に引き締まり、女性は脚長く細くヒップアップで、ルックス最近ではアピアランスとか言うんですつけ、においてはスタイルって

決定的だなあ、と改めて思いました。実は顔立ちよりもウエイト重いのかもかもしれません。顔はかなり化粧・髪型・アクセその他でゴマカシが効きますしねえ。

棗（ナツメ）やじゃがいも、緑豆、トウモロコシのたいへん絵になる千枚畑を観ながら頂上付近に辿り着きました。

千枚畑・千枚田は現実に目の当たりにしますとホントに人間の可憐さ・儂さそして営為の偉大さを感じられて感激します。

実際日本帰ってから写真など見せますと「おーっこ

んなところに行つたんですか！」と一番反応されるのがこの山から見下ろす段々畑の写真でした。農耕民族の胸の奥の何かをくすぐるのでしよう。「お主やるな」みたいな。

しかしそこから祠に至る最後のアプローチがもう何年も人跡未踏らしく、藪に覆われています。

この藪つてのがご当地悪名物の「ガチヨン」という灌木植物で、なんでも食べる羊も食べないで有名な鋭いトゲ、いやむしろ針に覆われた難物です。

そう動物が食べないコイツがまず繁殖してサラサラ

の砂地をしつかり地面として固め、そこに他の植物がやってくる、という段取りで、自然のサイクル的には大変重要な生き物なのですが、我々人間にとつてはホントに高さ膝までの奴が道に生えてたらもう通れない、とかそのぐらいの超厄介者。

ここで話には聞く

「中国人は（仲良くなる）義理堅い」  
の実例を早速見ました、お兄さん、と言いましても申し遅れました、知恵さんルオリン夫妻が五〇代半ばです。なので六〇手前だと思ふのですが、そのトゲツトゲを

物ともせず、薄い布靴（カンフー映画で見るあれをご想像なされい）で踏みつけ踏抜き、杖を慎重に手で掴んでは折り、道を作ってくださいるのです。

マチューテでもあれば別ですが徒手空拳で我々のためにガチヨンに立ち向かってくださいる姿にはちよつと感動しました。

アプローチがそんなものですから竜王廟そのものも、建立は一〇年二〇年前程度とかなり新しいそうですし、日本のお稲荷さんみたいな小さなものではなく「小屋」というレベルの建物に中庭付き、三体の御神像は

人間大以上、という結構立派なものなのですが、尋ねる人も居ないので荒れ気味です。

五人でお掃除つてほどでもないですが片付けをしましたり、もちろんお線香焚いてお参りも。

ご本尊の神像は三人のおじさんが正装で座っており、真ん中が竜王様なのかな？ この後別の寺院にもお参りするのですが、非常に人間臭い感じでした。

イメージとしてはギリシャ・ローマの神々の彫刻に近いかもしれませんが、神様なんだけどあくまで人間として描かれているような。

ただし造形がなんとも拙いというか雑というか、も

ちろん技術が無いわけではなくて「そういう造形」だとは思うのですが、色形ともにケバケバしく、むしろそうやってできるだけ非写実的にすることで浮世離れた神様感を出しているような感じ。

日本のイベントで実物大ドラえもんや鉄腕アトムを見た時のようななんともいえない気恥ずかしさがありました。

余談ですが二次元のキャラクターを「等身大」三元に起こすのは一般的に極めて困難であり、以前パチンコ店の店頭ディスプレイで等身大ケンシロウ（『北斗の拳』の主人公）があつたのですが、公式設定の身

長一八五センチにあの隆々たる筋肉と一〇頭身あるいは一二頭身に及ぼうかというギリシヤ彫刻的英雄体型を当てはめると大変に頭部が小さくなり、それを見た友人が

「ケンシロウ意外に小顔やな……」

と呟いたのには微笑を禁じ得ませんでした。

ここで初めて中国土着の「宗教」に触れたわけですが、なんだかよくわからないですね。基本道教だと思うのですが、今の我々が、たとえば台湾の道灌やそこにお参りする様子の映像を見たりしてイメージするア

レほど確固たるものではなくて……

やっぱり文化大革命で、宗教施設には物理的にも心理的にも大きな断絶があつたのでしようか。

なによりガツカリしてたのは研究者の松永さんで、現実を見れば「竜王廟が村落共同体の中心として機能し……」という絵が描けなくなっちゃって、さてどうしよう、という感じ。後ほどまた言いたいこと言いの安富先生が「いやだから中国には『村落共同体』てのがそもそも無いの」とネットワーク型の人の繋がりを説くのですが、松永氏は腑に落ちないご様子。

もちろん僕は知見が無いので静観。でも日本のムラと外見的にはそっくりなので、鎮守の森があつてお祭りがあつてそれそのものが求心力になつている、という物心の構造を当てはめたくなる気持ちもよくわかりました。

池谷薫監督の名作、映画『先祖になる』を拝見してましても、あの大津波とそれによる徹底的破壊で崩壊した村落に笑顔が戻るのには、やっぱり「お祭り」が復活した時だったんですよ。ムラの生き残りがありえないような情熱と真剣さを持ってその地方に続くお祭りをなんとか開催して、みんなで涙を流して喜ぶんです。

しかしじゃあそういう求心力が無いかと言えばそんなことはなくて、日常のいろいろに混ぜられているようです。

前段で参考資料として掲げましたが、二〇〇四年にご当地で（日本人の男女が）伝統的な結婚式を復古させて挙げる、というイベントが企画された時は、我も我もと数千人の人々が我々が今泊まつてるヤオトンの周りに詰めかけて、裏山が崩壊しないかと心配されたほどだとか。

このへん、最近は日本でも「山村で昔式のカッツリ

婚礼を」というのをやりますとニュースになって地方紙や地方局が飛んできて一種のお祭りになりますから、同じですね。

このへんにズレがあるのが、わかるようでわからない、わからないようにわかる、近いようで遠くて遠いように近い、という感じです。

竜王廟でお兄さんが語ってくださいったところによると、政府共産党も最近は汚職摘発に大変熱心で、だいぶクリーンになったそうです。むしろ小役人が震え上

がつているぐらいで。ただ、ということは何十年もベツタベタの中抜きが普通に行われてきたということ、ホントに汚職は東アジア文化圏の宿痾ですなあ。

日本だつてあれですよ、特別会計とか天下りという形で表面化してないだけで知らない間にお金消えまくっているわけで。

ともあれ廟からの景色は素晴らしいものでした。

段々畑に、点在するヤオトンに、地方豪族の大邸宅

(現・革命記念館)。

なんだか別の世界に来たみたい。

帰りは棗を落ちてるやつ拾ってひとつふたつ食べてみました。生棗は食感は林檎と梨の中間みたいなシャツクリ系で、でもサイズ小さいので食べごたえはあんまり無く、甘みもそんなに無いです。「素朴」という表現がピッタリかな。日本だと山間地の子どもがスカンポ（イタドリ）折って食べるじゃないですか。あんな感じかなあ。

熟した実も齧ってみましたが、こちらは果肉がスポンジ状になってて味もなにもありませんでした。熟したのは生薬にしたり、もつと乾燥させると甘みも出て

ドライブフルーツとしてイケるそうです。

中国特に北部では超スタンダードな植物であり食物であるようです。

わたし昔文藝部に所属してたような者で、通学の電車の中では岩波の緑色を開いて「近代日本文学に親しんでる少年」を演じてましたが、それらやもちろん中国の古典文学には、よく「ナツメ」が点描として出てくるんですね、庭に生えていた、とか、実が落ちていた、とか。

ところが日本では、いや見かけるのは見かけるので

すが、山に自然と生えている椎や檜のような風景扱いで、なんとなく実感がなかつたのです。あまりおやつやお菓子にもなりませんし。

それがひとつ「ああこういうものか」と理解できませんでした。

穿った見方をすればやっぱり戦争があつたので、「棗がある風景」というのを日本人が忘れたがつてるのかもかもしれませんね。

ヤオトンに帰ってから深尾先生発案でミイミイとファーフアの洗濯。ロクシタンのシャンプーですよ。

フアーファはむしろ気持ちよさそうだったのですが、問題はやっぱりネコだけあってミイーミイーは嫌がりますしてねー。

そこで気づいたのですが彼は左手（前足）の手首から先が無いのです。なんでも山でウサギ用の罠に掛かってしまつて、自分で引きちぎつて逃げてきたそうなんです。なんとも痛ましい事故ですが、胴とか食いちぎられなかつただけマシと考えるべきか。前足が突つ張れないので四足歩行とうさぎ跳びの中間のようなひよこひよこした歩き方なのですが、気丈なもので後日裏山で他所から来たネコと喧嘩して追ひ払つてました。人生に

は気合が大切ですな。

水を嫌がるのもあるのですが犬の散歩の件と同じで猫もベタベタ可愛がるという習慣がないそうので、猫歴  
|| 人生のワタクシのエステ技術を用いてモミモミしてあげますと

「な、なにをするか」  
的に恐れおののきます。

しかしこちらにも最盛期には五匹飼ってた手練れですから手を変え品を変えポイントを強弱を変え試行錯誤を繰り返しますと遂にはおとなしく撫でられるように

なつてくれました。

さすがに「撫でれ」とやつてくるところまではいきませんでしたが、あれはその子の個性にもよりますし、その子とその人間との相性みたいなものもありますので。

あまり「喉鳴らし」の経験も無いのかそんなにゴロ言つてくれませんでした。ライオンでも動物園などで人間によく慣れた子ですとゴロゴロ言うらしいですから、あれもあくまで満足で自然に出るというよりも、人間など仲間との関係性で発生させるコミュニケーション手段かもしれませぬ。

嫌々ながら洗われたミイーミイーが日向で身体を干してますとお兄さんが蹴飛ばしていきまして、あらお兄さんミイーミイー嫌いなのかしら、と思いましたが、なんと目がほとんど見えていらつしやらないとのこと。

そんなバカな、さくさく山道登って行かれましたよ？

まったく気がつきませんでした。

ずっと住んでる村とはいえ、人間の認識とか認知つて本当は一体どうなっているんだろう、と考え込みます。眼や耳、またそこから入る情報はあくまで補助に

過ぎずなにか未知の感覚器みたいなものがあつて、いや「感覚器」という考え方がそもそも先入観となつているデカルト的自然観であり……

太陽が昇つてくると日差しはかなり強くなり、日向は暑くなつてきました。でも木陰なら全然大丈夫。

湿度の関係でしょうか、日本でも山あいに行くのと割とそういう感覚もありますが、あ言いましたっけ僕が行つてた中高は合宿の好きな学校で、毎年のように黒姫の山荘へ行つたんですが、でも黒姫付近と比べてもずつとカラツとしてました。

震災・原発絡みで節電節電と煩かった一一年の夏も、そこかしこである年齢層から上で「そういえば昔こんな感じだったような気もするね」という声が聞かれましたが、エアコンを筆頭に現代の人間が活動で排出する熱エネルギーって、想像してるよりもずっとゴツツイものなのかもしれません。

## ●小麦食うぞ

さて、一歩きの後でお楽しみ朝食はいきなり！

ご当地名物「ハーラオ麺」（漢字は「食」編に「合」と同じく「食」編に「各」、「ハーラー麺」とも）捏ねた小麦粉の塊をパスタマシンのような底に穴の空いた金属の筒の中に入れ、それをテコの原理で上から押し出して、下には煮立った鍋が待ち構えてて即茹でる。

見た目のイメージとしてはちゃんぽん麺が近いのですが、腰はそんなに無い方向なので給食のソフト麺とかあんな感じかな。

ここでまた大阪人の天邪鬼吼えさせていただきますと讃岐ブームに端を発し世のうどんは「コシ信仰」、

しかしこの高齢化社会が加速度的に進む日本いや地球において食人に不必要な顎運動と強い嚙切力を求める食品ばかりを神輿に挙げてワツシヨイワツシヨイ持ち上げ、あまつさ夕ピオカまで入れて「コシ」という冷静に考えると「えっ『かたい』とどう違うの？」とよくわからない観念に阿るのはいかなものでしょうか

大阪うどんはやーらかいでございますよ名店道頓堀『今井』を筆頭に、うどんというものは箸で持ち上げた瞬間には切れずお口に入れた瞬間切れるそうM&M'sのチョコレートのような食感が、もちろんベストとは言いません人には好み趣味趣向がございますから、し

かしそれらも認めて頂いてもよろしいのではないですか、ねえ！伊勢うどんのみなさん!? 宮崎うどんのみなさん!? 名古屋メシお馴染みあんかけスパのみなさん!? 稲庭うどんにヴェトナムのフォー、忘れちゃいけない懐かしの喫茶店ナポリタン、まだまだコシのない麺は世界にたんごございますよむしろコシでごまかされて！小麦粉そのもののそして水・塩・出汁・具の良し悪しを見失ってはおられまいか!!

という方にはお勧めの麺です。

地元のみなさんのソウル・フードだそうで、この地

方の楽団を日本に呼ぶというイベントを企画した際には、ハーラオ麵製造に必要なこの巨大な鉄の押出機と鍋をも日本に持ってきて、会場近くのホテルの厨房などを拝み倒して借りてはハーラオを作っては楽団員が涙しつつ啜る、という光景がみられたとか。

中国はその昔は華北は小麦文化圏、華南は米文化圏でして、こちら北方ですから基本は小麦文化なんだと思います。小麦と言ってもパンではなく様々な形の麵。イタリアでいうパスタです。ちよつと古い中国産『西遊記』（の翻訳）を読みますと食いしん坊の猪八戒の

描写、日本ならドンブリ飯を掻っ込むようなシーンでよく「うどん」が登場します。これはこのハラオのような各種の麺を指しているのを、日本の翻訳者が訳に困って一絡げにうどんにしたのでしょう。

これに、本日はトマト・いんげん・人参・ピーマン・じゃがいも・豆腐などを煮込んだスープ（スープベースちよつとわかりませんでした、鶏ガラか、あまりクドくなかったので野菜オンリーかもしれません）を掛け、そこに前夜ご紹介しました五種トツピング（すりごま・黒酢・トマトペースト・ネギ・香草ひま

わり油)を好きなようにアレンジして頂きます。

つけあわせは一見ただの胡瓜のスライスだったので  
すが実はこれが工夫物、ニンニク・生姜・酢・塩・砂  
糖に鶏ガラスープで和え、生姜の粉、花山椒、クミン、  
茴香の粉をごく軽く振りかけてあります。ピリツと味  
が引き締まり胡瓜の香りも引き立ちつつ味わい豊か、  
ヘタなサラダなど裸足で逃げ出す立派な「野菜料理」  
でした。

まとにかく、美味しい。

前日も言いましたように口馴染み身体馴染みがよく  
「なんぼでも入る」系でして、山歩きで軽く身体動か

した後でもあつて超もりもり食べてしまいました。

素晴らしい。

いや出発前に安富先生が「世界一メシが美味しい」などとおっしゃつたので、またまた大阪のおっちゃんらしい、

「琵琶湖よりでかいクジラ見たで」  
言うあれかなと思つてましたらホントに美味い。

なんでしょうね、いきなり二日目にして結論めくのですが、つまり普段の僕らは根本的に間違つてるんですよ。方向が二方向あるとしたら、みんなして上ばつ

かり観てるんですけど、実は上を観ると自動的に下がおろそかになる、しかし「下は大丈夫」という勝手な思い込みがあつて、そこに隙ができる。その時にこういう「そこ」を突いたものに出遭うと、

「ほあああああ！」

とひっくり返つてしまいます。

僕たまに行く中華のお店あつて名前出すと「あああそこか」と食通に鼻で笑われるお店、そこはなんでも美味しいんですけどあるとき友人と行きますと「お若いんですし最後に汁ソバでも」とリコメンドいただきま

して裏メニューいただいたんです、具は白髪葱と細切りチャーシューだけの黄金のスープに麺が浮いてる汁ソバをね。

これがビックリするぐらい美味くて、ラーメン系の食い物でヘタするとマイ・ヒストリーベストなんですけど、これたぶん「売り物」にならないんですよね、というような話をカー・セールスのその友人と語りました。私もむかしやマーケティングの真似事みたいなことしてましたもんで。

たぶんその「売る」つまり金銭媒介のコミュニケーションに乗ってる物って、何であれそこで一回その本

来の価値と違う金銭価値みたいなものに「変換する」必要があつて、ここにいるいろいろだいたいじなものが落ちるんです。全部とは言いませんけど。もちろん、受け取る時にもう一回変換が行われるので、ここでも余計な夾雑物、たとえば「コストパフォーマンス」などというくだらなさ極まる概念とか混ざつてきて、本質から目を逸らさせられる。

で、結局「目黒のさんま」のお椀状態になつたものをフタ開けてくんくん嗅いで「ああさんまださんま、あこがれの」と涙ぐむ殿様みたいなことをやってるのが現代都市人ではないですかね。

ここには、料理人が「美味しい」と思うものを作って出して、食べる人が「美味しい」と思う、ダイレクトな関係があつて、こうであると多少のズレがもしあつたとしても、すぐアジャストできるんです。

パトロンが描かせてた頃の絵画の方が「ちゃんとしてた」ように、相手がいなければひとりよがりになります。さすが、さりとして不特定多数を意識するのも実は大変危険で、ありきたりな表現ですが「おたがいの顔をイメージできる」関係というか、それがやつぱり「生活」ってものの基本だなあ、と。

朝食後、先生方は難しい議論されているので、僕はのんびり過ごしました。

庭先から少し遠くに隣家の庭先が見下ろせて、そこでは鶏が駆けまわりヤギがもぐもぐ何か食んでました。我らがヤオトンにも二羽鶏が番で居たのですが、大人しい子達であまり鳴かなかつたです。野菜くずや食べ残しを黙々と消化してくれてこれぞリサイクル。

といつてるともうお昼です、さつき朝食食べたばかりなので軽く、ということでも出ました餃子、もちろん

水！

これを黒酢につけて食べる。

皆さん水餃子には黒酢ですよ黒酢。日本でお馴染みの醤油＋酢＋辣油ではすぐ薄まってしまう。辣油も「食べる辣油」的に刻み炒めニンニクなど混ぜてコッテリさせた方が水餃子には合いますね。

なにより皮が分厚くて美味しかったです。餃子特に水餃子のポイントは皮ですねえ。小麦（粉）はご当地ではあまり穫れず買ってくるようですが、産地でなくても使いこなせるのは日本人だっけほとんど輸入してるわけで。

このへんは北方、モンゴルを始めとする遊牧民の文化や西方に足を伸ばせば中央アジア・シルクロード、あちらの文化もすこしずつ入ってる模様です。

そうそう、印象的なのは大蒜（ニンニク）の香り。よく「中国では餃子にニンニクは入れない」と聞いたのですがこちらでは入っていました。というより、北京人である王さんのリクエストで抜いてくれたぐらい。しかしまったく臭くもクドくもなく、これは掘りたて新鮮だからでしょうか。

料理上手の文豪といえば檀一雄先生と水上勉先生が

まず思い浮かびますが、そういえば壇先生は戦時中中国におられた経験からか、日本人（特に当時の）には珍しくニンニク・シヨウガ・ネギで味のベースを整えるのが得意技（『壇流クッキング』より）。対する水上先生は禅寺の小坊主のご経験からか野菜の素材の味を引き出す丁寧な手間暇に特徴があつて、料理も最後は人柄というか人生そのものだなあ、と感心した覚えがあります。

お二人とも「しようがなく始めたんだ」と謙遜されるのですが、それなら功成り名遂げたあとにはする必要のない手仕事なので、やはり好きこそものの上手なれ、

ですね。

小麦についてももう少し言いますと私数年前からホームベーカリーで家族のパンを焼くようになりまして、元来がオタク体質ですから通販で容易に手に入る類の小麦粉はいろいろ試してみましたところわかったことが、日本人はあまりに小麦粉に無頓着。

お米を思い出されれば一瞬で理解されると思うのですが、あれですとやれコシヒカリだやれ魚沼だやれ農家の顔写真、口やかましく由来出自を問いただすくせに「メリケン粉」となると突然スーパーで特売の日清

製粉の黄赤白のお馴染みのアレ一辺倒。

同じ穀物ですから言うまでもありませんが品種産地出来不出来でまったく風味が違います。スタンダードな「イーグル」（カナダ・アメリカ産系ブレンド）と「はるゆたか一〇〇%」（北海道産）を比べてご覧なさいな。当然出来上がったパンも他の条件がピタリ同じでもまったく違う味です。もちろん「はるゆたか」の方が日本人好みの控え目ながらじんわり旨味の広がるお味で美味しいのですが、「イーグル」もトーストするとサクサクして「あ、これ食べたことある！」というお味に仕上がります。というか、パン屋さんでも

よく使われる粉だそうで当然なんですけども。

なぜこんなにわざとのように今やひよつとすると米よりも食卓において重要な地位を占めかねない小麦の由来を無視するのか理解不能なのですが、もちろん偉そうなことを言ってますが僕も四〇年近くまったく不問に付し続けたわけで、これはきつとアメリカの陰謀ですね。

さっきのうどんの話にも絡みますが、お米料理思い出していただけですとわかりますように小麦（粉）料

理も小麦（粉）がおそらく決定的な味の要素です。そこらのお店のうどん・パンより美味しいものが、高い粉さえ使えば誰にでもできます。嘘だと思われるなら飼料米寸前の安古米を料亭の炊飯名人が炊くのと「ゆめぴりか」新米を僕が中級炊飯器で炊くのとどっち食べたいですか？

ではなぜそこを隠蔽・無視しているのかと言いますと、ひよつとするとそれを言い出すと多くの「パン職人」や「うどん名人」が成立しないからかもしれない。（もちろん腕自慢が高級粉を使えばより美味しいのですが、とても高価になります）

なぜこの直接関係ないことをグデグデ言ってますか  
と言いますと、たぶんこの、

「それを言っちゃおしめえよ」

という根本のところから目を逸らしたいからどうでもいいところをさも大切な何かのようにワイワイ議論する、というのがおそらく現代という時代であって、そこを剥いでシンプルにすることで物事が随分スッキリする、と思うからです。

小麦料理の決め手は粉で、ここに目を向けない限り  
コシとかどうでもいいものに引きずられて道を誤り海

は逆巻き街は業火に包まれ人類は滅ぶ。

## ●緑化するぞ

昼過ぎにツールンがまたモンデオ飛ばして迎えに来てくれて、今日は谷の緑化運動の進捗を視察に行きま  
す。

途中、米脂の街中で、あそうそう中国は「市」が  
「県」よりも大きな単位なのですここは米脂県、でA  
TMでクレジットカードで現金を下ろそうと思ったの

ですが、僕のカードは不許可でした。

なんでも一時期スキミングが流行った時に日本で盗んだデータで作られた不正なカードがガンガン使われて、かたつぱしから使えなくしたそうです。もちろん何か手続きすれば大丈夫なようですが、中国行かれる際は「これ持つてるから大丈夫だろ」と頼り過ぎないようにされるのがよいやも。

またこれもきらびやかな、おそらく道教のお寺の前で合流したのは新さん御一族。このへんの豪族の末裔で、山をいくつもお持ち……のようには見えない普通

のおじさま達がポロシャツにチノパン姿で、それもそのはず今は皆さん普通の仕事を普通にされてる市井の方で、中心人物の新さんは警察官をされているそうです。

お寺は極彩色。赤・黄・青・緑とにかくカラフル。よく「法隆寺の建立当初の想像CG」なんかがド派手に塗られてますが、もつと凄いです。あれ日本人好みを考えてかなり控え目にしてあるのかもしれないし、中国の方がさらに派手方向に行ってしまったのかもしれない。朝見た竜王様の何倍かの大きさの様々な神

様の像が、並列にわんさかわんさか並んでいます。

そうだ、七福神をイメージされると一番近いかもしれません。百福神って感じです。布袋さんや鬼子母神（たぶん）のような日本でもお馴染みの方々も。仏様系の方もたくさんおられます。光背に額に白毫、指で印を結び蓮華座に座りさらにその下には狛犬やガネーシャつぽい白象。

いやあ混ざってますねえ。

いや、ひよつとすると「三教」（儒仏道）全部こみの寺院だったのかな？

椅子に座った像が多いですが立像や坐像もあります。

建物は二階建てで別棟と中二階で連結するような複雑な構造で、上階にも神様が並んでいるのが日本のお寺との相違点でしょうか。ただ外装はレンガや木で誤魔化してますが作りは遠慮会釈のない鉄筋コンクリで、このへん合理的。たくさんの像がありましたけどどれにもお参りの後も新しく、今も皆さんの信仰を集めておいでのようです。

視察地はその寺院の裏山つてことで、山道を新さん一族の懐かしい二代目VWジェットタで……つてうおおいこんなところホンマに行くんですか！という、スズ

キ・ジムニーでも持つてきたいような極細・凸凹・オフロード、これを飛ばす飛ばす。

またクルマの話ですいません、バブル以前は日本車は輸出用と国内向けでいろいろパーツ変えてるってところが非難の対象にされたりしたのですが、いやこれこんな道日本に無いし、というか、日本人こんなところファミリー小型セダンで突っ走ろうとは思わんし。やっぱり郷に入っては郷に従えですよ。

と、途中で止まって後ろを見やるみなさん、「後ろ

がついて来ない」と心配してるそうで、つてええつ、  
こんなところモンデオじや絶対無理ツスよ！

冗談ではなくごくフツーに

「あれおかしいな来ないな」

みたいな心配の仕方だったのでなんだか感覚が麻痺しました。携帯電話？ もちろん入らない山奥です。

結局、目的地着いてから引き返してピストン輸送しようということでした。私と松永さんが先着。

その平飼い養鶏場にはたいへん立派な鶏たちがのんびり飼われていて、聞くとここのブランド商品にし

たいと開発中とのこと。

どこも知恵を絞らないといけない時代なんですねぇ。もちろん事務所的な建物もあつて、ということはこので人は働いてて……あの道毎日往復するのかと思うと人間って凄い、と改めて思いました。

さて全員揃つて山道をテクテク登り、山頂で開けた景色はまた格別でした。彫りの深い峡谷に人々の生活の匂い、それを囲む山々の穏やかな稜線、たまたまですが天上から差し込む光の束いわゆる「天使のカーテン」も見られ、幻想的……な風景を邪魔するのが、官

製植林されたいかにもいかにもで等間隔に木々が並ぶ  
なんともかわいそうな山。その横が我らが民間チーム  
が担当した山で、こちらははずいぶん自然に普通に緑に  
覆われてました。

安富先生に伺うと緑化のキモは

「なにもしない」

ということだそうです。結局、人間がヤギや羊を放牧  
してそれらが草を食べ、または木を伐りまくって使う  
からハゲて土が砂になって飛んで砂漠化するわけで、  
それらを止めればすぐにでも地衣類のコロニーが地表  
をカバーして保水力を高め、そこにガチョンのような

草が茂り、いずれは木々が生え育つ。

ではなぜそうしないかというところと日本でもお馴染みの「こうしました」という決め事・お役人仕事のアリバイづくりであるからで、ある地域などは毎年新聞に「こんなに緑化しています」と笑顔のお役人の写真が載るそうです。

「毎年やってる」って時点でおかしいわけですが、もちろん下々の者はわかりきってるわけですが、まあ、飽きて&予算が尽きて変なことをやらなくなるのを待つ他ありませんな。

「黄土高原」と聞いてウェブなど引きますとグラ  
ド・キヤニオンのような荒涼殺伐とした土茶けた侵食  
大地の写真が観られるわけですが、このように想像よ  
りもずっと緑化が、（進んでいるところは）進んでい  
ました。

人間が壊したものですから人間が回復することもで  
きるようです。希望がありますね。

## ●石炭街道

さてその後大きなターミナル駅まで行くのですが、この道が凄い道で、もう。

北方から石炭を積んだトラックが中国各地に散らばっていくその根本のルートだそうで、日本の道ではちよつと見られないような超巨大トレーラーが上り下りミッシリ埋まっています。特に荷を満載した下りはティル・トウ・ノーズの数珠つなぎのままソロリソロリと移動してるほどで、

「世界で唯一衛星から見れる渋滞」の称号が冠されるとか。

しかもまたドライヴァー達がマイ・ペースな中国人

ですから、ある時など一〇〇〇キロ単位の超渋滞が発生、原因は何かと見れば先頭の二台がトレーラー路上に停めたままレストランでメシ食ってたから、というなんともはや。

渋滞とそれによる空気の汚れにも顔をしかめたのですが、それより顔が歪んだのはこの道路の構成。三車線なのですが下り・追い越し・上りという構成で、つまり追い越し車線は両側から目標を追い越そうするクルマがフルスロットルで飛び出しお互いの相対速度を高め合う超ウルトラ危険地帯。

よくこんな凄まじいこと考えるなとか考えても  
実行するな、と感心したのですが、実際はカタチ上は  
三車線だけど幅的にはギリ四つて感じで普通車同士な  
ら相對してもなんとかなることと、中国の方はこれは  
都市部のドライブアーたちもそうだったのですが徹底  
して「だろう」運転はせずに「何が起きるかわからな  
い」を前提に「全員が」周囲の動きと呼吸を合わせて  
運転してる模様で、だから車線とか順番とかメツチャ  
クチャなんですけど意外に事故は起きない（そりやも  
ちろん日本よりはずつと起きてるでしょうけど）。

またタールン氏は軍隊行つてそこで免許取つたそう

で、運転が超上手かった、のにも助かりました。もちろん最新のモンデオの運動性能にも。最近のフォードの脚は評判いいですね。

駅でモンゴル人のお知り合いの方が来られてて、その人と別の調査に向かう松永さんと別れます。昔はこうしてモンゴル商人が毛皮など売りに来たそうです、というか今でも。

それから名産の桃を買いに行つて、とつぷり暮れた頃、懐かしのヤオトンに着。

夕食は昼の餃子のタネがまだたつぷり残っていたの

で新しく包んで茹でてもらったものと、粟のおかゆ、卵と小麦粉の薄焼きクレープ風に、胡瓜の細切りをまたお出汁で和えたもの。

もはや言うもおろかですが、どれもたいへん美味でした。

アワはご当地名産、「米脂」というのはその粟の旨さを表現したものだそうです。

実はこれをビニール袋一袋いただいて、日本に帰ってから西式甲田療法を実践中で毎日基本は野菜をジュースーで砕いた「青泥」をお食べになつてゐる江口友子

先生（平塚市議）にお渡ししたところ、生で齧って

「うまいっ！」

と驚かれました。

甘いんです。とても「雑穀」などという失礼な呼び方はできません。

クレープ風は卵と小麦粉の比率が絶妙で玉子焼きともクレープとも違うふんわり優しいお味。具はネギぐらいだったと思うのですが、とても美味しかったです。卵が新鮮なのが効いてるのか、脂があっさりしてるのが効いてるのか……匂いを嗅ぎつけてやってきたミイ

ーミィーが好物らしく、千切ってあげると延々食べてました。猫は基本的にタンパク質ならなんでも好きですね。

一人部屋になったので両手両足を伸ばして……と言っても四人横に余裕で並ぶ寝台ですので、ぽっーんて感じで。何事も過ぎたるは及ばざる。

今宵は月は雲隠れ、もちろん星も少なし。

■ 一八日

● 山の上の葬送

ゆるゆると起き出しますと今朝は奥さん方の家系、常家のお墓のある山の上までお兄さんが連れて行つてくださるつてことでお墓参り。安富深尾両先生とご一緒します。

竜王廟の時のような軽いお散歩かと思つて気軽に行きましたら、都合三時間の道のりになつてしまいました

た。

山への道すがらに「革命記念館」があります。これは後述。ただその所在を示す看板に大きく写されている若かりし頃ここを拠点にしていた頃の毛主席が超力ツコイイ。沢東マジ青年革命家。惚れる。

「この頃はカツコイイですねえ……」

「革命後はどんどん狂った老人になつてくんやけどな

……」

「秀吉もこうだったのかなあ……」

なんとシンクロニシティ、そこでたまたま葬列に遭遇しました。ピックアップトラックにまるでパチンコ屋の新装開店祝いグッズのような派手派手な葬儀品を満載して、徒歩にて白装束に白頭巾、腰に麻紐を巻いた若い男女が列になって付き従います。「礼記」の頃から続く伝統の装束のようで、香港や韓国でも、また少し前までは日本の地方でも観られたそうです。

そして小広場ではこれは中華圏冠婚葬祭のお約束、BACK-TICKがけたたましく鳴り響きます。

いや向こうの爆竹、日本のとたぶん火薬の量違うよ。

若干「危ねえ」とか思っちゃったもん。

我々はお墓めがけて登るのですがつまり山全体が墓地みたいなものですから葬列と途中まで御一緒。小学生ぐらいの男の子がその看護師さんスタイルで一生懸命駆けてる姿は微笑ましい。

トウモロコシ、アワ、じゃがいも、緑豆、ネギなどの畑を踏み越え乗り越え。トウモロコシを支柱代わりにインゲン豆育ててる畑にも出くわしましたが、これ大丈夫なんでしょうか。やってるってことは大丈夫なんでしょうけど。

途中、やつちやいかんはずのヤギ放牧のおじさんにも遭遇しましたが悪びれるでもなく怒り出すでもなくニツコリされるのでこつちもニツコリ。

山のそこかしこに、たぶん飼われてるものだとは思いますがぽつねんと佇む牛がのんびりしていて、またこちらを見るつぶらな瞳。放牧の一種なのかな。

山頂近くのお墓に辿り着きますとこないだ建立したばかりのお墓は大変立派なもので、人の背丈を超える石版に屋根・庇・軒風の装飾があり、一族の名前が多々刻まれ、お兄さんも「いずれ私もここに」となん

となく誇らしそうでもあり嬉しそうでもあります。

お供え物は（おそらく）野生動物によつて散乱して  
います。がまだ新しく、訪れる頻度を物語る。全体的に  
中国の方はこういう「散らかり」には無頓着ですね。  
むしろ人の気配つてことでウエルカムっぽい。

どんだん墓とか血縁とか葬式とかめんどくさいとか  
物理的に不可能だとか言い出してる日本人からします  
と、やっぱりちよつと羨ましいような気がします。

なんといつてもそこは山頂、見渡す限り自分が生ま  
れて育った風景を眺めつつ眠りにつけるわけで。日本  
でも地方によつては昔はこうでした。

安富先生まで「死んだらここに埋めてほしい」と言い出す始末で、「墓参りできないじゃないですか」と諫めつつもお気持ちにはわかる。

でも日本にそういうの再輸入というか再発見すると霊峰のいい場所はオークションとか言い出して……オエツ。

僕ですか？

もう火葬場からダイレクトで一心寺に収めてもらって骨大仏がいいかなあ……

両膝をつき、手をつけて挙げて三度拝む。

お兄さんに引き続き両先生ももちろん僕も、お参りさせてもらいました。

両家の繁栄が続きますように。

件のお葬式もたぶんすぐ近くだというので連れて行ってもらいました。

途中、そこかしこに各家のお墓があります。

尾根の一番高いところにその家の祖が建て、子孫や分家はそこから下へ扇形に下って建てていくそうです。

ということが一番てつぺんにあるのが一番古いお墓なわけですから、ぽっかり盗掘されているものも。

盗掘は中国学術界でもたいへん頭の痛い問題だそう  
で、北京の古物商・古美術商から、「これ絶対盗掘  
品」というのがなんぼでも出てくるんですって。

でも、盗掘されたからこそ貴重な現物がそこにある、  
とも言えるわけで……

途中常家の畑も見せていただきました。人の背丈ほ  
どの立派なアワが育ち、その畑で撮ったお兄さんと深  
尾先生のツーショット写真は今回のベストショットの  
一枚です。

さて着きますすとなるほど葬儀もたけなわ、男たちがシャベルを奮って巨大土饅頭をこさえます。それを踏み固めるのは例の看護師軍団で、女達がいくつもの巨大花輪を筆頭に装飾品を山のように飾っていきます。

見れば家、クルマ、輿、「蓬菜の玉の枝」のような黄金の木、それに観音様か弁天様かはわかりませんが女神様。あともちろん現金。などなど紙製のおもちやいや副葬品が山盛りです。大きな竹カゴに花飾りをしてラメラメに塗ったもの、天蓋のような吊るし飾りもの。

BGMはチャルメラの演奏、こちらはお金払って呼

ぶプロだそうで、それら葬儀全体を差配するのは「風水先生」と呼ばれるこれもまたプロ。なにかお経のよ  
うな聖書のような書物を、仏具でいえば独鈷のような  
何かを振り回しながら朗読されました。

なかなか明るいお葬式なのですが、こちらでは実は  
葬儀式次第の「ここで泣く」っていう脚本というかタ  
イミングがあるそうで、みんなそこで一生懸命泣くの  
でそれ以外のところでは泣いてられないそうです。

おもしろいですね。

それはこの三教文化圏では割とスタンダードな習慣

らしくて、だからあの北朝鮮の映像で「我らの首領様  
がー！」て絶叫して号泣しているのは「そういうタイ  
ミング」だそうです。あと子供の頃からそういう習慣  
慣れしていると任意のタイミングでスイツチ入れられる  
ようになるんですよね。

我々はテレビによつて何かいろんな物を観た気にな  
つてますが、このように「切り取り方」が恣意的であ  
れば何も観ていないか、むしろ間違つたものを観てい  
ることになり、非常に危険だなあ、と改めて。

そんな雰囲気でもあり、またメンタリテイ的にも特に気にならないのか、こちらがまるで参列者のような距離で見学してもカメラやビデオを回しても全くノープロブレムむしろウエルカムでして、深尾先生のインタビューににこやかに応える音楽家の方が印象的でした。

クライマックスは爆竹の音色と共にそれら紙の飾り物に火を点けて燃やす。乾燥しているからか瞬く間に激しい火柱となって盛大な煙を上げ、燃え尽きました。これも何かの縁、どうぞご冥福を。

ここで本当は墓に対して後ろ向きになつて白装束を脱いで放り投げて葬儀終わり一区切り、だそうですが、最近では白衣使い回すそうので皆さん着て帰られました。時代とともに。

下り道でも参列者の方がフランクにどこから来たんだなにしに来たんだと語りかけてこられて、まあ葬儀というのはホントはこの「野辺送り」こそがメインイベントで無けりやおかしいですよ。

ウチ父方の田舎が伊賀（上野）ですが、土葬とか男

手で棺を担いで野辺を……となると二〇年前ぐらいにはすっかり無くなってましたねえ。

いろいろと思ひ出すことの多い旅です。

## ●ハバブレーク

帰着しますと時間的にブランチになりました。

今日はじゃがいも料理。

じゃがいもを摺り下ろして、調味料を混ぜ込んで、蒸して、炒めたものです。炒める時にピーマンやネギ

も一緒に。

これがまた超旨い。

毎回ですいません。

粉モン風でもあり、一回擦ってるので澱粉化してぷにぷにした食感があるのはパスタ的でもあり、さらには塩味が絶妙。

これはほんとに日常食らしくて、食べてるところを見かけて「美味しそうだからそれを食わせてくれ」と言っても「お客様に食べさせるようなものじゃない」となかなかウンと言ってくれなかったとか。そのへんも粉モンに似てますね。

それに自家製採れたてカボチャ。こちらは地面を這わせるのではなく棚で作ってました。瓜ですもんね。だからか形がいろいろイビツになつてて、おもしろかつたです。

これをトウモロコシもちろんこちらも自家製、と一緒にと煮ると、ゆで汁がほんのり甘くいスープになるのです。これがまた先ほどのじゃがいもの塩気と抜群のコンビネーション。

いろんな料理をいただきましたが特にこのじゃがいも料理はここでしかいたただけないような気がします。日本でもレシピが広まれば十分ウケると思います。特

に子どもに人気が出そう。

トウモロコシは最近の日本のスイートなそれとは違って粒がかなりモツチリしてたので、古い品種かもしれません。あのスイートコーンというのは澱粉より糖分が多くなるように改良されたもので、僕が子供の頃はまだまだこういう「穀物」っぽいトウモロコシが主流だったように記憶します。

夏祭りの屋台でお醤油掛けて焼いてあると美味しいのはこっちですよ。

トマトは桃太郎以降の甘い物のほうが万人好みだと

思いますが、トウモロコシに限ってはこの系統を好む人も何割かいらっしやると思いますが、いかがか。

歩き倒してお腹も膨れたのでちよつと昼寝して、梨を齧りながら深尾先生買い置きの高価な中国茶をガバガバいただくアフタヌーンティー。

ご当地残念ながら水はダメで、井戸水なのですがどうやら農薬や肥料がそのまま流れ込んで一時はCOD（化学的酸素要求量）が二〇を超えるという（日本の基準では一〇を超えると下水）エライことになってい

たそうです。今は人口の減少に従ってかなり改善されたそうですが、それでも慣れてない我々は口にする水はたとえ歯磨き用でもペットボトル、ということ各ヤオトン内には五〇〇mlが二四本運び込まれていました。

しかし乾燥していることもあり、特に僕は水飲み星人なので一日五本近いペースで消費しちゃって、最後まで持つのか不安な気分。

その分果物、特に水気の多い西瓜や梨で水分を補給すればいいのですが、慣れてないものでフルーツ感覚が抜けません。おかゆが多いのも消化に良いのと同時

に水分補給の意もあるのかもしれませぬ。

王傑さんのご専門は思想史。中でも李卓吾の研究では、彼の論敵にしてパトロンという立場の友人との交流を仔細に観ることで、彼の思想に迫る論文をお書きになったそうで、安富先生が「これは古来初めてではないか」と激賞されていました。

古くて有名人ほど後世の人間が「これはもう確定していることに違いない」という思い込みで見ってしまうもので、重要な勘違いや取り違えが延々と続き、続けば続くほどその思い込みだけが根拠なく強化されてい

きます。

わたくしあるMMORPG、ネットゲですね、を「丸一年その世界で過ごしたことになる」ぐらいは凝ってプレイしてたのですが、最盛期には同接二〇万を誇ったそのタイトルでもウェブ上の有志が運営する「情報サイト」というと二つほどしかなく、しかもその両者が当然お互いの情報を参照しながら更新しますので、「どちらかが一度間違えただけで二〇万プレイヤー全員が間違っている」という事態に、無視できない頻度で陥りました。もちろん修正されることがほとんどなのですが、匂を逃した場合、修正圧力も弱くなってそ

のまま放置されることもあります。

情報の精度というものは、正解が存在してかつ二〇万の人間が鵜の目鷹の目で見張っててもそんな程度のものですから、まして「古代の偉人の思想」なんてそこら中に思い込みと取り違えが散りばめられていると考えるもいいのではないでしょうか。

李卓吾という方は、前半生を極めて真面目な科擧エリートとして四角四面に生きた方なのですが、祖父の喪に服するということが故郷に帰って当時の厳しい儒教ですから丸三年、明けて我が家に帰れば二人の娘が

餓死しており、そこで「下駄の歯がポツキリ折れ」たような気持ちになって後半は激烈な反骨思想家として孔子にさえ牙を剥き、最後は投獄され自害させられ禁書にされ著書の版木を焼かれた、でもなぜか現代に至るまで脈々と読み継がれ続けた、そういう凄まじい哲学者です。

「童心」という人間が生まれながらに持っている自然な感覚を大切にせよ、さもなければワシのように「仮（にせ）の人生を送ってしまうぞ……」

このへん安富先生の『合理的な神秘主義』（青灯社）からの受け売りでございます。

吉田松陰が読んで感動したりと（いかにも松陰が好きそうな人物ですね）一時は日本でもメジャーな思想家だったようですが、江戸期および幕末の反動からか十把一絡げで儒家ポイーな現状では省みる人が少ない模様で、たいへんもつたいないですね。

そうそう、お風呂事情はまだでしたっけ、こちらのおうちでは残念ながら湯船は無くシャワーです。中国の地方部では太陽「熱」温水器が盛んに使われており、日本人研究者が頻繁に訪れるこのおうちにも設置され

ておりました。ヤオトンではなくて、厨房と納屋とシヤワールームが並ぶちいさな建屋があるのですが、その屋上に。

確かに景観的には残念なのですが利便性には替えられません。日本の最新式のような電腦仕掛けで一℃単位で温度管理、なんてわけにはまいりませんで、時間とともに温度下がったり水圧が上下したり操作そのものがアトラクションですがまあそれも旅の楽しみ。熱い湯が、出ることもある、で十分です。

太陽熱温水器は原理上枯れてしまった技術なので効

率的には限界があるのですが、それでもなお、いやそれだからこそ、現在でもかなり有意義な省エネ・低炭素装置で、夏など「ガス使わない」まで追い込めるそうです。最近のモデルはガス湯沸し器に系統接続でき、そちらの温度管理に乗っかることで使い勝手的に特別な気を遣わなくていいようです。

オール電化で金掛かる上に運用不安があるのがあの給湯・貯湯系で、あれで二の足踏んでる方も多いかと思えますが、ガス代節約ならこの手もありますぞ。新築をお考えの際にはいかがですか。

## ●寨子

さて、一息ついたところで例の「寨子」現在の革命記念館を見学に参ります。(Googleマップにも載ってますよ) 元々はこの地方の豪族、馬一族が北方との交易で大儲けをして一九世紀におっ立てた大豪邸だそうで、のちに長征中の毛沢東率いる共産党軍に根拠地として提供されたとか。ここで「よし北京目指して反撃に出るぞ!」という契機になる会議が開かれたそうで、共産党にとつてはとても意義深い場所だそうです。

(記憶適当なので嘘ついてたらごめんなさい)

両先生と王さん、そしてフアーファも一緒に歩き始めたのですが、すぐご近所のお家のスロープを、ああ言い忘れましたが各ヤオトンは山肌を削って建てるために道から山をいくばくか登ったところに建てられていたので、そこを腰を直角に曲げたおばあさんが両手荷物でヨレヨレと……思わず手を貸す一同、おばあさんをお家まで送ります。

「卵が安くて思わずたくさん買ってしまった」  
とのこと。

息子さんなど家族は別の場所にお住まいで基本的にお一人暮らしだそうで、高齢化社会・核家族化社会の難題はもう中国にも押し寄せています。

御年九〇歳でズバリ「毛主席が来たことを覚えてい  
る」方で、それやこれやで深尾先生はそのままお話を  
聞くことに。三人と一匹で毛要塞を目指します。

「つてファーファ連れてて大丈夫ですかね」

「怒られたらそこで繋ごう」

「へーい」

道行くとみんなこっち観るのはアウトドアスポーツ  
テイルツクの珍しい日本人らしきご一行、ていうのも  
あるのですが、前述のように「犬の散歩」がとても珍  
しいそうです。

さて砦の門の前ではコツコツとノミで石の加工をさ  
れてるおじさん達が。改修に使う石ですが、素材は運  
んでくるものの加工は現地です。要塞の中  
でも作業されてる姿を見ました。表面にくさび形のノ  
ミを入れるのですが、これが飾りというか手間を掛け  
た証ということで「いい」ようです。日本の玄関先な

んかと同じですね。

石を運んでくるのはオープンデッキの三輪トラクタ  
ー。日本では見ない乗り物です。軽トラ的な乗り物・  
貨車だと思うのですが、悪路・高荷重対策に後輪が大  
きくゴツく、荷台も頑丈な一体型鉄の箱。クルマもそ  
こそこで進化するものです。

要塞は敷地的にはかなり大きくて、日本のちよつと  
したお城……岐阜城とかあのへんの規模感をご想像い  
ただきたい。ただ建物はそんなに高いものや広いもの  
はありません。元々邸宅ですから小さな広場とそこに

建つ建物をスロープや階段で複雑に結ぶ構造です。

なんと小学校まであったそうで、実際そこはかなり近年まで使われていて、路傍に使われてたと思しき古びた教科書が落ちてました。

ただそのような成り行きですので建物そのものはそんなに目を引くような立派だったり古錆びていたり、ということはなく、また、はなから戦闘要塞として作られたものでもありませんので珍しさもカッコよさもなく、観光地としては正直微妙かなあ、などとお城慣れした日本人は思ってしまった。

入場料的なものはどうも取らないみたい。

メインの建物にはど真ん中に毛主席と江青さんの寝室があつてヤオトン式の広い寝台にお布団を二つ並べてあるのが中国式リアリティ。それを観て王さんが顔をしかめて

「江青大嫌い」

と吐き捨てたのが印象的でした。まあそりゃあそうですよね……日本で言うど誰に当たるのかな、つて想像もつきません。淀君？ 富子？ いやあなんか違いますよねえ。

代わつて周恩来の居室は西洋風の脚付きベッドに書

き物デスク、この人はどんな時でもスマートだなあ、と感心しました。

やっぱり、史上に残る名コンビですよね。

そのメイン広場から細くて長いトンネル階段を延々登ると、見張り台のような小広場に出ます。ここが絶景で、思わず売店でビールを買い求め景色を着に一杯やる我々。

なんでもここは「龍の背」と呼ばれる山の尾根が九本集まる場所で、風水的には素晴らしい場所なのですが「普通の郷土が生きるには気が強すぎる場所じゃ」

とのこととでわざわざ一本外して建物を建てたそうです。  
もし九本集めたところに建つてたら文革とか無かつ  
たんですかね。

さしものフアーファも歩き疲れたのか砦頂では丸く  
なつてうたた寝してました。

ビール美味しいですね、ということとで帰り道にある、  
バス停前の村の売店（この風景が結構懐かしい）で一  
ケース購入。

中国では小さなブルワリーを有名な「青島麦酒」が

買収しまくっているそうで、昔飲んだあれもこれも買われた、と先生方嘆いておられました。

ただコントロールはまださほどキツくないようで、味はブランドによつてだいぶ違うように思いました。

基本的に常温で飲むようで、それに合わせて作られているからか、はたまた基本的に乾燥しているからか、とても美味しいです。アルコール度数も六%などとして、つかりあるのに、ほとんど酔いません。古いアメリカ映画なんかで、でかいコンバーチブルをバドなど煽りながら運転したりする様が描かれますが、あれたぶん全然大丈夫なんだと思います。

ちようどいい気候なので早めの夕食はお外にテーブルを出して。

こちらでは食事作法みたいなものは日本とだいぶ違い、たぶんいろいろあるんだろうとは思いますが立って食べたりしゃがんで食べたりウロウロしながら食べたりは全然OK。丼を日本式お茶碗持ちではなくて、下から包むように持つと、たいへん安定して食べやすいです。そういえばジャッキー・チェン（の映画）とか御飯食べるときそんな感じだった気がする。

今宵のメニューは野菜づくしで、

・インゲンのニンニク炒め

・トマトスライス・ザラメ掛け

・肉厚ピーマンと卵の炒め

・もやしとじゃがいものトマトニンニク炒め

・唐辛子と豚肉の炒め

・セロリと豚肉のピリ辛炒め

これを粟入りごはん&粟おかゆでいただきます。

言うまでもありませんが、超美味かった。どれも美味かった。

野菜はやっぱ「採れたて」にかなう味無し。我が家

でも夏はグリーンカーテンにゴーヤとキュウリを育てるのですが、もぎたてを炒めたり和えたりするとたいへん美味しいです。

今日はここに先ほど入手したビールと、知恵さんが持ち出してくださった白酒（パイチュウ）を。銘柄は「茅台」で貴州産の高粱を原料とする蒸留酒です。アルコール濃度高く味よりは薫りを楽しむスピリッツ系。ちいさなお猪口でクイツといただきます。周恩来は風邪を引いた時、この茅台酒を飲んで治したとか。

これがまた野菜の炒めものによくあって、ススムススム。

私達は居酒屋で味の濃いものを冷たいビールで流し込む文化に慣れ親しんでいます。あつさりしたものを常温のビールや強めのスピリッツでやつつけるのもかなり良いものです。

中医（中国医学）の先生が日本に来て驚かれるのは「冷たいもの摂り過ぎだ」てことらしく、胃腸どころか身体全体によくありません。僕もほおっておくと冷たい物グビグビいっちゃう方なので、意識してホットを多めにしています。

夕食後はデツキチエアを庭に出し、月と雲を観ながらビールちびりちびり舐めてのんびり。

極楽。

この折り畳みデツキチエアも深尾先生たちが街で買い求めて置いてあるそうで、確かに現地の人達にとつては「なんでわざわざ庭で上向いて寝たいのか」という感じでしょうか。

価値というのはホントに相対的なものです。

そんなこんなで随分夜長を満喫してそろそろ冷えてくるからとヤオトンに引っ込んで時計を見ると一〇時

二〇分ぐらい。

ネットやテレビが無いと夜は長い。

テレビあるのですが我々は観ませんでした。テレビがこのヤオトンにやってきた当初は、やっぱりご家族が全員で齧り付いて観ていたそうです。どこでも同じですね。

ネットも電波はバリバリ入ってたのでローミングすれば使えたはずです。

もうたぶん地球上どこ言っても追っかけてくるよ  
twitterとFacebook。意識して逃げないと。

## ■一九日

### ●再要塞

今朝も六時半には起床。日本では超不規則カオス睡眠な僕がなぜここに来るとこんなにも規則正しく。つまり

「規則正しい生活をしよう」

というのは間違いで、

「規則正しい就寝起床時間になるような生活を構築し

よう」

が正しい。因果関係が逆でござる。子供の頃からずつと言われてたんだけど大人みんな間違ってるじゃんぶツクサブツクサ……

とポケーと景色眺めていましたら深尾先生が出て来られて開口一番、

「ながたさん！ 夢を観たの！」

「出た。どんな夢ですか」

「ながたさんが『いやあちよつと大当たりして二億四

千万稼ぎましたよー』って夢！」

「それ僕がカラオケでヒロミ・GOの『二億四千万の瞳』歌いまゝすって夢じゃないですか」

「違う違う！　これは当たるから！　ヤオトンには不思議な力があるんだから！　私の夢見は当たるんですよ！」

「そんな大阪のおばちゃんみたいなこと言わんといってください」

「大阪のおばちゃんやもん」

「いやそうですけど」

安富先生も出てきて、

「当たったら研究費欲しいなあ」

「出します出します、ナンボでも出します」

不思議な力、期待してます。

知恵さんが鋤担いでヤオトンの横道を裏山に登って  
いくのでなんですかと尋ねれば煙突の煙道がどうも調  
子悪いので見に行くのだ、と。

ヤオトンの屋根は土で覆われていますので自然と草木

が茂るわけで、そこに設けられた煙突がそれらで塞がれてしまうことも多いようです。もちろん工夫なくぽっかり開いてるわけじゃなくてレンガを使った覆い構造はあるのですが。こちら雨季の雨量は物凄いそうので、それで土砂も溜まるのでしよう。

屋根に上がるとミイミイのライバルらしきキジトラ猫発見。「見たことない顔だな」的な不思議そうな顔で見られました。

煙突の近くにはこれは山肌繰り抜いて小さな洞窟が掘られており、物置だ、とのこと。

朝食はそうめん風のつるつる細麺。たぶんそうめんだと思うんですけど、作り方とかわからないので断言はできません。スープはネギなどの野菜に例の四種スパイス（生姜・花山椒・クミン・茴香）のあつさりタイプでポーチド・エツグで景気付け。そうめんと言えはカツオとコンブとお醤油一辺倒の我々には少し目先が変わって、これはこれで美味しかったです。お馴染み五種トッピングで味を変えられるのも。そうめんもトマトペーストが合うんですよ。

ボリュウム足りない方にはキビおかゆもありますよ、

と。キビのおかゆも美味しかったです。アワがねつとりした脂っぽい旨さだとするとキビは香ばしい感じ。

キビは品種によつては膨らんでもちもちした感じになるものもあるようですが、こちらではサラサラキープでした。

どちらにしても「ホツとする味」ですね。

なんでも現在中央政府はその名も「農村消滅」というスローガンを掲げて農村から人間を引き剥がして都市化するという、それをやってエライ目真つ最中の日本人からすると「止めなさいって！」と真剣に止めて

あげたくなる政策真つ最中だそうで、村からも子ども達の声がすっかり消えてしまったそうです。

確かに子ども姿を見ません。

この家の息子・娘も、できれば村に居たいんだけど村には仕事が無いから……と街に出ているそうです。

ほおつておいてもそうなんだから何も無理に誘導する必要無いと思うんですけどねえ。

昨日は深尾先生が来られなかったのもう一度寨子へ出かけてみました。もちろんファーフアも一緒です。前日見なかった居室用のヤオトンなどを巡ります。

辛く厳しい長征で心身共にボロボロだった毛沢東たち共産党軍も、ここのヤオトンで寝泊まりして現地名産の粟を始めとする農作物をたらふく食べてグングン体力を回復しガッツを取り戻したそうで、いや人間基本は衣食住ですなあ。

古い欄間の見事な細工なども見ました。

一九世紀にバスケットコートがあつたと言う大豪邸だった往時が偲べれます。

一角の補修工事現場で、人夫さん達向け炊事場があ

りそこで顔見知りのおばさんが飯炊きパートをされて、  
「いやー久しぶり葉子ちゃん！」みたいな感じで  
我々もあずきおかゆをご馳走になりました。

おばさんに聞いた「地元の星」の超頭よかった男の  
子の話。家庭環境は苦しかったそうですが、本人が超  
がんばって周りもできるだけ支援して、いま超エリー  
トコースに乗っててゆくゆくはかなりエライさんにな  
れそうな予感、と。

そういえば戦前戦後すぐぐらいまではそういう「故  
郷に錦」みたいな話は日本でも聞きましたよね、地元

の神童をみんなでよつてたかつて地元の名士がお金出してあげたりして東大にブチ込んで高級官僚か大博士にして。

しかしそうやってエリートとその予備軍に社会的責任感を背負わせる・感じさせるをしても日本のエリート達は太平洋戦争にまつしぐらに突っ込んでつて国滅ぼしたわけで、それ式がええかというとなんとも言えません。そういうえば近現代史の加藤陽子先生が爆笑問題さんとのTV対談番組で

「今の若者観てるとぼやーんとしてるけど、悪いことはできなさそうだとも思う」

とおつしやつてて、責任感や使命感などいうものはそれそのものとして方向性別に持つてませんので、使い方間違えると悲劇です。

しかし中国は、いくら一人っ子政策で子どもが少ないといつても母数が違うので、そのように成り上がつていくにはおそらく（その頃の日本と比べても）言語を絶するような壮絶な努力が必要で、まさに「科挙」の伝統というか、あの子どもが机に齧りついている超不自然な姿を喜ぶメンタリテイはあれなんなんスカね。これも東アジアに根付く妙ちきりんな「癖」だな、と

思います。

そうやって優秀な官僚を育てれば育てるほど官僚機構そのものが制御不能な暴走ロボットとなつて暴れ回り王や議会など意思決定機構を乗っ取り国を滅ぼすのは東アジアに限らず古今東西何度も何度も何度も何度も繰り返されることなのに、人間はすぐこの官僚システムに依存する悪癖から脱することができません。

SFでよくマザー・コンピュータが支配するデイトピア幻想が描かれますが、暴走官僚機構よりは最近ならコンピュータの方がマシじゃないかと思うほどで

す。

要塞には一時観光地化しようとしておつ立てられた現代風のプレハブも一棟あつて、実に景観ブチ壊しのいい建物でした。

ほれご覧。

降りて来てパツタリ出会いましたのが、これまた九〇歳を超えて毛沢東を知っている、いやいやそれどころか、ともに民兵として一緒に戦つた「革命老人」。もうさすがに男性はほとんど残つてないそうです。

杖はついておられましたが意気軒高、「I・(ハー  
ト)・CHINA」のTシャツに誇りを感じます……つて  
政府に貰ったので着てるだけ、とのことですが。「家  
に來い」とのことでお話を伺いにお邪魔いたしました。

壁には偉い人が訪れた時の写真がたくさん。毛主席  
のこの地方での足跡を書いた書物などをデジカメで簡  
易コピーさせてもらいつつ、ひ孫さんにスイカをご馳  
走になりました。細くて長い脚が眩しい、スタイル拔  
群まさに米脂美人のひ孫さんには可愛い赤ちゃんが居  
て、つまりやしや孫さん。旦那さんは深センで働いて  
らっしゃるとか。もう少し大きくなったらそちらへ行

くんだけど、そうなるとおじいちゃん寂しくなりますね、なんて話をしてました。こちらのお宅はネットワークが広めみたいでおじいちゃんは入れ替わり立ち代わりで見えていこう、との予定だそうです、革命老人にもまさに「農村消滅」の波が来ているようです。

「こんな老後送るために革命に参加したんとちゃうんやけどなあ……」

とおじいちゃんがつめ息つかないで済むことを祈ります。

王さんと一緒に三人で記念撮影してもらっちゃった。だって「革命戦士」ってカッコイイじゃないです

か！

## ●流れに乗る

そしておうちに帰ってお昼は出ました豚まん！

最早皆さんご存知だと思えますが関西では「肉」というと普通牛肉を指すので豚肉メインの肉まんのことは豚まんと呼ぶのです。

……て豚ですよこれ。羊？ 牛ではなさそうなんですけど……油断すると馬とか驢馬という可能性もあ

るので……でもたぶん豚です。

といいながら、タネは餃子の時もそうだったのが肉気は少しでベースはお野菜。肉の苦手な王さんのためにオールお野菜のベジタブルヴァージョンも。

もちろん、語彙少なくてすいません、超おいしかったです。

特に今回はレギュラー・トップिंगスの存在が大きくて、飽きずにすみます。しかし、こちらのお料理には一切文句言つてこなかった私ですが、この時ばかりは、この時ばかりは辛子とお醤油が欲しかった……せつかくこんなにも美味しいのに！

しかしこの時以外は本当に、まあトッピングの威力もあるとはいえ、醤油塩ソースマヨネーズ、何も欲しくありませんでした。

豚まんだけでは喉がつかえる場合には、定番アワおかゆも。そしてすっかりレギュラーに定着した昼ビール。

嗚呼今思い出してもヨダレが出ます。

この豚まんて顕著にわかつたのですが、我々関西人は豚まんというalmaz「551蓬菜」の地下鉄でよく異臭テロをやつてるアレを思い浮かべるのですが、も

ちろん僕も大好きでしょつちゅういただくんですけど、  
というか関西（特に大阪）のご近所付き合いには「豚  
まん経済」というのが回ってまして豚まんのやりとり  
で親密さを構成するという風習があるのですが、あれ  
つてとても美味しいんですけど

「一発で倒してやる！」

という鼻息の荒さがあるんですけどよね。

すると、そう何個も何個もは食べられないんですけど成  
長期の体育会系男子でもない限り。

ところがこの日出てきた豚まんは美味しいんですけど  
どそこまでの「圧迫感」が無くて、であるがゆえにい

くらでも食べられる。

女の人551を三つとかなかなか食べないでしょ？でも王さんモシヤモシヤ食べてました。僕は何個食べたかな……四と半におかゆとか、そんな感じですよ。

これってすごいだいなポイントだと思うんです。昔から「飽きのこない味こそ至高」なんて言いますが、そういう「味」があるんじゃないやなくて、「姿勢」のことじゃないかな、なんて。

食事時にはいつもやってきてくれるようになったミ

イーミイーに中身をあげると美味しそうに食べてました。ネギ・ニラ入ってるのでどうか、と思いました  
が鍛えられてるようです。

お昼の後はシエスタに限る。

ちよūdいいい気温と日差しだったのでデツキチエア  
を三台持ち出して川の字になってうたた寝る両先生と  
王さん。

めちや気持ちよさそう。

「これ写真撮って『これがフィールドワークの実態

だ』って文科省にチクリましょう」

「ハツハツハ、今年は全部自腹だから何も怖くない！」

「ながたさん早く二億四千万当ててー」

僕は別の椅子に座ってボンヤリしてたのですが、知恵さんが横から「ちよつと動かないで」というゼスチャーをしてそーつと僕の向こうに手を伸ばします。その手にはお箸。

そちら見ますとサ・ソ・リ。

キヤー。

蠍はこちらの名産らしくて、昼間は日本の家電回収車よろしく「サソリ買うよ買うよー」ってクルマが回ってますし、夜は「サソリ取り」の人たちが山肌を蠢きます。黒い山腹を二条・三条の懐中電灯が光るからわかるんですね。で、家々の犬達が「お前なにもんだ！」と吠えまくる。これが夜のこちらの風物詩。

ちよつと大きめのケース一杯に、だからそうですね数にすれば百とか二百とか、いやもつとでしようか、で、日本円五千円ぐらいだそうです。漢方薬の原料のようですね。

知恵さんは慣れた様子でポイツとそのへんにあつた

ガラス瓶に……てこれサソリ入れかー！ 何匹もカラ  
カラになつておられるわ……

蓋も無いですがガラスつるつるなのでサソリは逃げ  
られないそうです。

今まで幾多のこのフィールドワークに参加した日本  
人の皆さんが「サソリの洗礼」を浴びているそうで、  
さすがに刺された人は何人もいないそうです。が僕によ  
うに至近距離で「ギョツ」というのはよくあることだ  
そうです。

一度などはどこかで付いたそれをクルマで発見して

車内がパニックになったとか。

刺されると死ぬわけではないですが一日半ほどのたうち回るぐらい痛いそうです。もちろん巨大に腫れ上がり付き。

もし至近で見つけたらサソリめがけてフーツと息を吹きかけると、身を固めて例の尻尾を掲げた戦闘態勢を取るのです、その隙に逃げるとか。

そんな無理ツスよ（泣）

『水曜どうでしょう』で観たのですが、アフリカのセレンゲティ国立公園のド真ん中にお宿があるので、敷地内に平気でライオンとか入ってくるんです。で、

そういう時どうするかっていうと

「渡した笛吹いたらガードマン来ます」

吹けるか!!

虫（や猛獣）と人間との闘いは永遠に続くのです。

『ナウシカ』のように。いやナウシカは闘って無いって。

そうこうしてますとお昼は終わったのに厨房が慌ただしく。覗きますと薄切りのじゃがいもを揚げています、そうそれはポ・テ・チ。

なんでもこちらに小さなお子さんが来られた時にふと「ポテチ食べたい」と言い出したのがきっかけで、じやがいもスライスして揚げるだけだからご当地でもできるでしょう？ やってみましょう！ てなことで作ってみればこれがバカウマ、とのこと。

起き出した先生方とまたお茶をガバガバ呑んで揚げ上がり待ってますと、知恵さんが持ってきてくださったのはご当地ブランドに仕立てあげようと目論んでいる、林檎エキス&梨エキス。現地無農薬の素材を使い、レシピは大阪茨木でビストロを開いているヴェテラ

ン・フレンチ・シェフの中西さん。

後日お店にお邪魔してランチを頂いたり、イベントでジビエ料理を頂いたりしたのですが腕は確かです。

イメージとしてはミキプルーンとかあんな感じのトロリとした粘度の高い黒色に近い液体で、これを紅茶・コーヒーに入れるもよし、パンにそのまま伸ばして塗るもよし、甜麴醬代わりに炒めものの甘み出しに使うもよし。

梨はのどに効き、林檎は疲労回復に効くとのことですが、どちらも美味しいです。林檎が甘めで梨があつさりめ。でも好みかな。

ワイワイ言いながら紅茶やコーヒーにどぼどぼ入れて楽しんでますと、揚げ上がりました自家製ポテトチップス。

ひゃー・旨い！

まあ、ポテト料理は熱々だとなんでも三倍旨いのですが、例の四種スパイスと油のマツチング、それに元々のジャガイモも日本のものと少し変わってておいしい。

最近でこそ「キタアカリ」や「インカのめざめ」が市民権を得つつあります、育種業者さんによります

と日本では「男爵」と「メークイン」が強すぎて他の品種は出しても出しても売れなかつたそうです。原産地南米では何百種類もあるそうですから、こちらの品種も日本では食べられないものなのかもしれません。

これ冷めても美味しくて、ジップロックに入れて持ち歩いて二日後にレンジで温めたんですけど、それでも美味しかったです。

驚異的。

そんなことやってますとこの旅の象徴的な出来事が

起きました。

朝方「水ちよつと足りないねー」 「節約しなきゃいけませんかね、それとも買いに行きますか？」なんて言つてたんです。

するとこの昼下がりに、深尾先生の元に留学してる学生さんのお父さん、この方が西安のえらいさんで、「息子がいつもお世話に」と配下の者をよこして、水とビールを二ケースずつ抱えてやつてこられた。

ばんざーい。

これがその「流れに乗る」ということで、この地では本当にこれが効く、というか、働くのです。

私達は普段、目標を持ち計画を立て意志を強く持つて課題に立ち向かえ、と幼少のみぎりより教えられ叩きこまれそうやって生きている、つもりになっているのですが、実際の所人生とは阿弥陀様の思し召し、そんな、人間のそんなしよーもないジタバタなど大自然の摂理・因果の理・縁起の綾に比べれば螻蛄の斧でございます。

「きつと、うまくいく」

そんな感じで。

さすがに「龍背の地」らしくこの「流れ」は加速し、

昼ごろに深尾先生が

「お兄さんのチャルメラ聴きたいねー」

なんて言っていましたら

「じゃ友だちと演るか」

から

「どうせなら秧歌（ヤンガー）やる？」

「そうしようしよう」

というのが村中にあつという間に広がって、

「夕方五時半から公民館広場でヤンガー開催」

と相成りました。

あ、ヤンガーというのは中国で事あるごとに行われ

る舞踊のことで、盆踊りが突発的に行われるものだと  
思いねえ。日本でも昔は地方によつてはやつてたそう  
です。

そうと決まれば、つてもんで急遽ルオリンさんの秧  
歌講座が始まつて、深尾先生と王さん、それから僕も  
見よう見まねで練習します。ステップは四拍で三步で  
十字切つて一歩で元へ戻る、その繰り返しなのでちよ  
つと慣れればまあイケそうです。手には派手な蛍光色  
の扇子（ジュリアナートウキオー）を手首スナップで  
振り乱すか、極彩色の傘ひらひら飾りつき（ヤクルト

スワローズ東京音頭）をエツサホイサと上下する。こちらは適当でよろしいご様子。

で、列になつて練り歩くのですが「隊列を抜くアクション」というのがあつて、これが難しい。

文章にするの大変ですがやってみますと、一人が止まったら、後ろの人がその人をくるつと回る、さらにその後ろの人がその隙に二人を追い抜く、追い抜いたら止まつてた人と回つた人とがその後ろに付く、という感じ。こう書くと簡単そうですが、実際の隊列の動きの中では自分が一番二番三番のどこを担当しているかパツとわからなくなり、しかもその動作中にさらに

追い抜きが発生して入れ子（枝分かれ）みたいにもなり、しかも列が円を描いてますとマンデルブロ集合同じみたいになってハーツ！今どこー！となります。

というか僕なりまして。

実践でコツを掴めばそんなに難しいことではないと思うのですが理屈聞いただけでは理解し難いものでした。

そんな練習をしますと安富先生が唐突に、

「ながたさん……それ同じ服ずつと着てるの？」

「はい？ あいやこれ実は似たような服が四枚ありまして。毎日替えているので清潔ですよ」

黒と紺のTシャツと長袖シャツを都合四枚持つて行きました。ご当地に着いてからはルオリンさんが洗濯してくださるので毎日替えています。（パンツと靴下は自分で洗いました）

「でもいつもそれじゃつまらなくないですか？」

「いやあ別に……僕あんまりこだわりなくて」

「そもそもなんで似たような服ばかりなんです？」

「いやあ……億劫だからですかね」

「億劫？」

「これなら選ばなくていいじゃないですか」

「はー」

僕名作『純情パイナップル』でヒロインがクローゼット開けると同じ服ズラーツと並んでるってシーンはマンガ・アニメの「それは言わない約束でしょ」を鋭く突いた名シーンだと思っうんですが。

「それじゃダメですよながたさん！」

服は大事よ服

は！」

深尾先生も参戦だー。

「とか言いつつ我々も昔は酷いもんでしたが。この人は『ミドリガツパ』みたいなモッコモコの防寒着で全身を覆い」

「ミドリガツパて」

「そうなのその頃冷え症が一番ひどくて。とにかく暖かい服着ないと死んじゃう気がして。でもそういう安富さんも『磔四日目のキリスト』みたいな風体で」

「四日目！ 復活できなかつたんですね三日目に」

「そうそう。ヒゲぶわーつと生やして頬がゲソーツとコケて」

「その頃いろいろ大変じゃつたんじゃないやよ……」

「とにかく着るものはだいじです」

「はい、気をつけます」

そういえば僕初めて「動く安富先生」を観たのはビデオニュース・ドットコムネット放送（配信）の時でしたがその頃はまだフルベアードのゲリラか山賊みたいな姿でした。今はオレンジフレームのグラスを瞳

に輝かせ、スペインの女物ブランドを華麗に着こなす  
ハイレベルお洒落泥棒です。

深尾先生がスポーティな服装で颯爽と道行く姿も  
「フィールドワーク」と聞いて思いつく茶色いポケッ  
トのいつぱいついた探検服に登山帽のイメージではあ  
りません。

こういう姿を間近で見ると若者たちも「あつ、人文  
社会系の研究者もカツコイイかも！」と勘違いしてそ  
の道に進みポストがなくて困り果てるかもしれない。

ホントなんとかならんのか日本の文科行政。上から

下までズツタズタですよ。

阪大の非常勤講師の謝礼コマ九〇分で六千円ですよ。そんな額で最前線で活躍してる社会人の有意義な話聞けると考えるのは、いくらデフレの世でも無理でしょう。

## ●ヤンガー

まあそんなことさておき、踊るからには先に腹ごしらえしとくべ、ということであ早めの夕食はきしめん風

幅広麺。スープはハーラオ麺の時にいただいた鶏ガラ系のインゲン・ジャガイモ・豆腐・トマト、もちろんいつものトッピングも。

つるつるモチモチして美味しかったです。

美味しかった以外の感想無いの？

無い。

デザートは青桃。こちらの桃は青い状態で熟してる品種があるようで、真緑で固いそれを恐る恐る皮ごと齧ってみれば、甘みは少ないながらしつかり桃の味。

さあ行きましょう、つてんでルオリンさんが着替え

て出てきてビツクリ。普段はいかにも「おかん」なヨレヨレのTシャツに柔道着の下みたいなズボンに前掛け掛けて首にタオル巻いてサンダル履き、これが日本からお土産に持ってきた白いブラウスと黒いパンツ、ボデイコンシヤスなそれをピシツと着こなし当地伝統の布靴を履くとまさに「米脂婆姨」、流行語的に「美魔女」と言うのと叱られるでしょうか。先ほどの「衣装の重要性」を思い知りました。

普段はともあれ「ここ一番」ぐらいは似合う服持っていたいですねえ。でも非衣装持ちからしますと、「ここ一番服」ほど出番が少ないのでそこにお金掛けるの

がもつたいない気がして……

広場に行きますと村人たちが老いも若きも男も女も  
どンドン集まってきました、自然発生的に音楽がスター  
トし踊れる人から踊ります。楽団はチャルメラ二本  
（うち一本がお兄さん）と、大太鼓を二人打ち、そし  
て小シンバル。これだけ。しかし谷間のこの村ではす  
り鉢状の山に反射するのか、はたまた村人が集まっ  
しまえば他の音源が全く無いから響くのか、それだけ  
で十二分にボデイ・ソニック。

特にチャルメラのお二人は循環呼吸で踊りが一段落

してる時以外は一切休まずひたすらに吹き続けます。

そのリズムに乗せておじいちゃんもおばあちゃんも、赤ちゃんを抱えた若いおかあさんも、もちろん安富先生も深尾先生も、輪になって踊る踊る。

僕ですか？

ビデオ&カメラ担当です。

踊り苦手なんですよハードラック相手以外には。

三隊ぐらいに分かれてまして、この隊のリーダーみたいな人が居て、その人にまた上手い下手があるんです。で、どーにも収集つかなくなったら

「ハイ終わり終わりー」

で一回リセット。でもそれやつちやうと村人達から

「えー……」

と不平不満が出るんですね。これもきつと村人の中ではいろいろこの人はこうあの人はああ、と評判があるんでしょうね。

そんなこんなで一時間少しばかり汗を流すとみんな満足、散会になりました。太鼓は公民館の物でおかたづけ。素晴らしいですね、昼過ぎに「やるぞ」って夕方ぱつと踊れるなんて。

このネットワーク性というか、頭があつてコントロールするのではない、自発的な個々がなんとなくひゅーつと寄り集まってくる感じ、これが心地よい。

日本だと一ヶ月前から回覧板回して神社の許可取りに行ったら「警察に許可取ってくれ」とか言われて近隣に「当日うるさくしますすいません」と挨拶回……おえつ。

帰り際、お兄さんとご友人と共に売店前で少し昔話に花が咲き、踊ってる姿撮りましたよ、とデジカメの液晶見せますと笑顔でした。たぶんこんなことは生活

の一部なので、「なんで珍しがっているんだろう」とでもお思いなのかも。

「いやーしかし音楽最高でしたね、これぞスウウイングッ！」

「……私、昔ここに滞在したあと、学会でベルリンに行く機会があつてさ」

「ほい」

「たまたまベルリン・フィルのチケットが手に入ったので、聴きに行ったのよ」

「どうでした『精密機械』と評される世界最高峰ベル

リン・ファイルは」

「全然ダメ。こここの聞いた後だと」

「マジすか！」

「いや谷になってるから音響がいいのか」

「みんなの踊りが音楽に与える影響があるんですね」

「うーんわからないけど、本当に素晴らしい音楽だね、これは」

「昔はここにもつと凄いチャルメラの名手が居たんだけど、その方は若くして亡くなっちゃったの」

「へーっ……聴いてみたかったなあ……」

クラシック・マニアにして絶対音感の持ち主・安富先生にしてその評です。僕も友人にジャズ・シンガーがいるもんですからジャズライヴ（普通の人よりは）よく聴きに行くのですが、なんでしようね、その……なにか決定的なものが違うように思いました。

食べ物でも思ったことなのですが、うまく言葉に今でもできないのですが、なにかこの人たちは一番大切なことに触れたまま生活してて、我々、というのは日本に限らず先進国都市人ともいいいますか、はそれ

を手放して別の何かを掴もうとして、そんなものは無いのでただ虚空でもがき続けている、そんな気がします。

僕生まれてこの方一番「よかった」音楽ライブ・イベントどれかって聞かれたら「これ」って即答する。

先ほどの「貨幣経済の介入が無い」以外に無理に理由をつければもちろん参加性があるからで、なんかかわたしらの「普段」はいろんなところにポツカリ穴が開いている気がしてなりません。

帰ってもまだ七時過ぎとかでしたので、そこからスイカを齧りポテチを摘みビールを煽りつつ、夜更けまでいろいろと語りました。

ちようどこの時、のちに『トレモロされた日本』

(Kindleで期間限定出版、書籍版は近日出版予定です)に結実します構想が持ち上がって、というかいつもどおり

「というような本を書こうと思ってるんですが途中で止まってて……ながたさん続き書いてくれますか？」

「あ、はいやってみます」  
みたいな。

やっぱり法律でテレビ放送とインターネット接続は夜七時から翌朝六時まで切れるようにしたらどうや。たぶん日本人は忘れていた何かをたくさん思い出すよ。

いや冗談抜きでドイツだったかが確か「閉店法」てのがあって八時かなんかで特定の業種除いて店閉めないとダメなんですよね。なんでも規制規制は窮屈だとは思いますが、なんだかもはや、そこまでしないとダメな気がします。

さあ寝るか、と思いますと王さんがデツキチエアで  
ジツと夜空を見つめているので

「いい五言絶句でも浮かびますか」  
などと軽口を叩きますと

「……明日帰るんですよね」

「そうですね」

「お月様もう見れない……」

「うおっ」

北京は、そんなに……

「お月様、 さようなら~~~~~!!」

強く生き抜いてください……

●もう食べられない

今日は七時三〇分頃起床。ヤンガーの興奮が残っているのか何度も目を覚ましました。いやビールの飲み過ぎか？

フアーファアの散歩は今朝はそのへんをくるり。朝食は押出麺二回目。なんと食べてもうまし。これなんと

か日本でも食べないかな……

なんてのんびりしてますと、いやずつとのんびりしているんですが、地元TV局の独立製作チームが二人で訪ねて来られて、深尾先生中心に取材。僕も深尾先生の通訳付きというVIP待遇でインタビューされまして、なんだか気恥ずかしかったです。

ご夫婦でカメラからメモから全て取材して回っておられるそうで、でもマスメディアはどこもそうなのか、最近はいいいネタ撮っても硬派な・真面目なのはなかなか使ってもらえないんですつて。中国だから政治的に

どうこうというのではなく普通に、「数字取れないから」とかそういう理由で。

世知辛いですねえ。

取材は結構長かったので、僕らはポテチをつまんだり、生アワや棗をいただいたり、そして例の林檎・梨エキスを大量に日本に持って帰るために梱包作業をしたり。現地のガラス瓶ですので強度が不安で、ハンドキャリアなものですからこれでもかかとペーパータオル的なものでぐるぐる巻きにしました。

そんなことしてますともうお昼、棗餡入りの揚げパンに胡瓜スライス、そしてアワおかゆ、えーんどビール。もちろんセンターにはいつものトツピングが鎮座。TVご夫妻も一緒に。

こういうシチュエーションでは王さん、深尾先生、安富先生も、それから松永さんも、皆さん僕のためにわざわざ通訳の労を取ってくださいまして、本当に恐縮でした。しかもみなさん学者さんですから要点だけ簡潔的確に伝えてくださって、たいへんありがたかったです。

言葉が全くわからないというのは普通不安なものですが、この旅ではその不安を感じる事がほとんどありませんでした。

一回だけ緑化山登りの時にダーーツと話しかけられました

「ア、アイキヤノツスピーチャイニーズ」

「English, OK?」

「ヴェ、ヴェリーリル」

「Oh... Uhhn...」

と向こうの方がどない言おうか悩んでたところに王さん来てくれて助かりました。

アイムソーリーヒゲソーリー。

NOVAでも行くかな……  
もう無い。

深尾先生。

「あ大丈夫。中国語なんてここに一年住んだらペラペラになるから」

「あたりまえですよ！」

揚げパン超美味しかったです。これはホントに日本

の店頭でも十分売れる。棗餡つていうのがしつとりした控え目な甘みでちょうどいいんです。プラムジャムとかあのへんを思い起こしていただければ。

パンとおかゆと胡瓜つてコンビネーションとしてどうなの、とお思いかもしれませんが、いや、大丈夫ですよ。

てか給食つてそうじゃないですか。いまの子はどんな幸せな食生活送ってるか知りませんが、我々の頃はパン。ずっとパン。まずいパン。真ん中にパン。おかずが野菜の煮付けでもカレースープでもソフト麺焼きそばでも主食はパン。形は大型・細形・丸型と変わっ

ても味は同じパン。たまにレーズンが入ってるだけのパン。バターはたまにでいつもはトランス脂肪酸。今思えばなんでそんなにマズイんだと理解不能なイチゴジャム。でもトランス脂肪酸よりはマシだから人気のイチゴジャム。絶望の大阪市は塗り物この三種のみ。塗りチョコとかマーマレードとかピーナツバターとか一切なし。毎日がトランス脂肪酸。副菜はクジラの唐揚げでイヤッホウ。よくわからない何か小さな塊がだいたい副菜。一汁一副菜一パン一牛乳。ここは刑務所？

虐待やないか!!

訴えるのは国連!? J A R O!? アグネス・チャン  
!?

僕四六年生まれですので昭和五二年〜五八年あたり、西暦なら七〇年代後半は、こんなものでしたよ。

この昼食の方が遥かにご馳走。

なんやねん日本どこが豊かやねんどこが飽食やねん子ども達にあんなもん食わせてなにが、なにが……

しかしわたくしのインタビュー調査によると大阪市がずば抜けて酷いみたいです。

「クリスマスにはケーキが出たよ」

「揚げパン美味しかったよねー」

「ウチ田舎だったから月の三分の二はごはんできー」

What? So What?

あの頃の大阪市に一体何があったんだろう。

「食い倒れスピリッツ」を植え付けるために食い物の恨みつらみを蓄積させる英才教育かな？

ぬをおおおおおおおおおお！

ノルウェーの刑務所つてめっちゃ環境がいいらしいのですが、なんでも犯罪者は基本的に社会や人生に不

信や不満を抱いていて、それが結局法の箍を「破った  
っていいや」という自暴自棄につながるそうで、つま  
り快適な日々を送ることができて「あつ生きるって捨  
てたもんじゃないな」と実感できると再犯率がグツと  
落ちるんですって。

くそう。

さて列車の切符の関係で王さんが先発です。また北  
京で再合流予定。タールンには面倒ですが駅まで二往  
復してもらわねばなりません。

見送りがてら、いつもお兄さんが座っている家の畑の先端が空いていたので座って眺めていました。

ダイナミックな谷の地形とそこに刻まれた千枚畑の人の営みよ。

こう……あたりまえのことですが視界一面に自然が見えるのは、やっぱりいいですよね。

僕は四角四面な街中住まいですので、たまに息苦しくなると長居公園に逃げ込みます。あそこは結構大きな公園ですので一応目の前一八〇度ぐらいは木々で埋め尽くすこともなんとか……最近はどんな時間帯でもくまなくおじさんおばさんが周回されてましてね……

しかも華やかなスポーツウエアなどをお召しで……  
瞼の裏に焼き付けておこう。

王さんも出発まで

「きれいな空気吸い込んでおきます!!」  
とスーハースーハーしておられました。

夕方またファーフアの散歩がてら、お兄さんに連れられて両先生と四人一匹でテクテク歩いてますとなーんと奇遇、深尾先生が昔よく遊んだ少女と一〇年ぶりぐらいの再会。ちようど街への買い物から帰ってきた

ところだ、ということでお家までおじやましました。

ここのヤオトンがまたえつらい高いところにあつて、登る登る絶景絶景でもこんなところ大変じゃないの住むの！

「子供の頃は家にいる間中ずーつと井戸から水汲みしてたつて」

「うわあ……」

こちららも番犬を飼つておられてファーファを見て鬨志剥き出し、ファーファの方はなんのこつちやわから

んと知らん顔で僕を引っ張って「先へ行こう！先へ行こう！」とあいからわずの大はしやぎ。二頭の犬の時間ならぬキャンキャン声が夕刻寂しい谷間に響き渡ります。

アルバムなど見せて頂いて懐かしい懐かしいを連発する深尾先生。外国の方の家族写真見せていただくといつも思うんですけど、日本人って写真に対してシャイですよ。海外の人みなさんだいたい笑顔満開でポーズ決めたりして写真を撮る・撮られるを楽しんでらっしゃるんですけど……ってあんまりそういう写真は

家族以外に見せないだけですかね。それもシャイですけど。

姉妹でモデルっぽく背景・衣装つきで決めてる写真などもあつて、とても楽しそうでした。そうそう韓国でも「結婚写真」はプロに依頼してシチュエーションから衣装からポーズから構図からドラマティックに仕立て上げ、グラビア写真集みたいに作るそうですね。

なんで日本だけあの写真館で家族固まつて表情固めて撮るアレで固定されたままなんでしょう？ いや、プリクラがあるか。しかしプリクラでははしやげるのに家族写真や結婚式写真は固まつてるとなると、それ

またそこに問題が潜んでそうな気になつてくるよ？

娘さんはもとよりお母さんもスリムジーンスびつたり履きこなすナイス・スタイルで、そりやまあ、前にも言いましたけどこの道毎日上り下りしてりやスタイル良くなりますって。

日も暮れてきたからお暇しましうか、てなタイミングで娘さんのスマホに着信があつて、会釈しながら楽しそうにしゃべる様子が、何百年変わらない背景のヤオトンとミスマッチで、なんだかおかしかつたです。

もし僕が外国人で、京都へ来て清水寺あたりで小坊

主さんがiPhone使ってたら同じように思うのでしょうか。

ほぼ満月の月明かりを頼りに夜道を家路につきます。ご当地田舎ですから、怖い話となるといっぱいあります。安富先生が

「昔ここで嫁が間男と共謀して旦那を毒殺したという噂があつて」

と語りだすと深尾先生が

「もう止めて止めてそんな怖い話！」

とおっしゃるのでありますが先生もフィールドワーク長いも

のですから

「……おかしな夫婦といえは財産目当てで野獣のような女と結婚した男性が居て」

「野獣！」

「もう凄いの。発声が唸り声で普段座敷牢みたいなところ繋がるのね」

「そつちの話の方がよっぽど怖いわ！」

人間が一番怖いんですよ人間が。

鬼神とか幽霊とかそんなもん人間に比べりや屁でもない。

さてあとは出発を待つばかり。

もう会えないかと思うとファーファを撫でまくり、それからミイーミイーを弄くり倒しました。ミイーミイーは隣のデツキチェアの座面に乗って眠るぐらいには慣れてくれました。

実はこの旅の一〇日ほど前に同じ茶トラのウチの猫を亡くしてまして、一四年。名前が「ミルク」なので「ミー」と呼んでまして、同じように目つきの悪いや鋭い猫でした。手の掛かる子でね、最後二年ぐらいは口内炎になって二週に一度ぐらい注射に行つて、間

隔開けるために痛み止めの薬を、そのままでは呑まな  
いものですから練乳に混ぜて練って舐めさせるんです。  
七月に夏バテか何も食べなくなつて、点滴だなんだと  
付きつきりで看護しまして、なんとか元気になつて前  
より元気になつた、と思つたらある朝心臓の血栓が大  
動脈を腰のあたりまで飛んで下半身動かなくなつて。  
ネット時代は功罪あるもので、お医者さん開くまで調  
べてますと予後はもう基本的にダメなんです。暗澹た  
る気持ちで行きますとお医者さんの説明も同じで、と  
にかく血栓溶かす薬を点滴で入れますから、と預けて  
帰つて、また引き取りに行つて。家帰つて数時間で急

変して亡くなりました。

もう長くないのわかってんだからそのまま家に連れ帰ってやれば。帰ってから無理に薬をやらうとしたのですがあんなことしなければ。いや食べなくなつたあの時期にそつとしておいてあげれば眠るように逝けたのか。いろいろ後悔ばかりです。

そのミーちゃん、「いいよ」ともう一度遊びに来てくれたみたいで、嬉しかったです。

ミーミーには長生きしてもらいたい。

お兄さんはお外が好きで、昼も夜も庭の片隅でし

やがんで、両腕を両膝の上で組んで、その上に顎を乗せるようなスタイルで沈黙考されている姿をよく観たのですが、この夜はそうするお兄さんの頭上にちようど満月があつて、なんだか本当に古代中国の哲学者つて、こんな感じだつたんだらうなあ、という絵でした。

こつそり写真を一枚撮らせてもらったのですが、人間都合いいことしか見てないものですね、端っこに洗濯物のタオルがどどーんと写つてて台無しな写真でした。

カメラ、RX100は大活躍してくれました。その写真も「手持ち夜景」モードにすると単純にシャッタースピードを遅くするのではなく（そうするとブレやすくなる）高速で感度変えながら六枚ぐらい撮って中で合成するんですって。

だから月夜に手持ちでそんなに気合入れずに撮った写真がブレ無しでかつちゃんと見られる写真に。ちよつと人の目ではありえないような画になるので、自然ではあるのですが、これもまた表現と思えば。

技術の進歩は凄いです。

なにやらヤオトン内が大盛り上がりなので顔を出しますといきなり、

「ながたさん王さんはどう？」

「はい？」

年頃（？）で独り身の男女を見ればくつつけたがるという懐かしい風は日本ではもうすっかり見なくなりましたなあ。「見合ババア」「仲人ジジイ」て存在が親戚に一人はいたものですが。なんだか深尾先生が「話をまとめるといふのは両方に『あの人あなたに気があるみたいよ』と吹き込んで状況を動き出すように持つて行ってこそよ！」

とルオリンさんに説教されてました。知恵さんも笑ってました。お二人は恋愛結婚だったそうです。

いや、僕は文学が恋人みたいなもんですかゴフツ・ゴフゴフツいかん持病の結核が。

夜一〇時半、タールン号で出発。名残惜しい感動の別れのシーンではなく割とあっさりしていたのは、両先生もちろんまた来年来るからで。

僕はどうでしょう、また来る機会があるのでしょうか。

「とても楽しかったです」みたいな中国語を直前にア

ンチョコ引いて覚えたのですが、結局「再見（ザイチ  
エン）」「謝謝」を繰り返すばかりでした。

## ●百鬼夜行

タールン号は山道を出て高速を飛ばします。ここは  
ずいぶん田舎になると思うのですが、立派なピカピカ  
の高速が通ってました。

都会の富を田舎に公共事業の形で回して配分するの  
が日本の誇る田中（角栄）システムだとするなら、い

まその真つ最中という感じでした。すぐあとで車窓からの風景でも田舎街にバンバンおっ立つ高層ビル、を嫌というほど観ました。

「中国バブルは崩壊する崩壊する」詐欺で小銭稼いでる方おられますが、田中システム回しているならあと一〇年ぐらいは開発する余力があるようにも思います（収拾できない内乱などの政治マターは別）

ただ、そのあと日本がそうなったように反動というか停滞が来て、その時は日本よりもさらに急峻で過激なものがあるとされますので、どんな余波が日本をいや世界を覆うのか、不安は不安ですね。僕まだたぶ

ん生きてますから、それを目の当たりにすると思いません。

まあその前に人工光合成でも実用化されてエネルギーや食料を奪い合わなくていい、いつでもパイヤもいで食べられる南の国のハメハメハ大王の世界が実現されてればいいんですが。

駅に着き、大活躍のタールン氏と別れて、駅舎に入るのにもパスポート&荷物X線チェック。

日本に居るとあまり話題にならない（されない）の

ですが中国は国内でちっちゃい暴動やテロ的なものが四六時中起きているそうで、もちろんこれもテロ対策でしょう。

待合室はとても広いのですが日本の、どんな辺鄙な駅でも隙間さえあれば自販機を押し込む式ではなく売店も先日見た外側の一店だけのようで、もちろんのようにはコインロッカー的なものも無く、シンプル極まらない。ただ駅舎そのものは新しくて電光掲示板も最新とまではいかぬまでも三色LED世代でももちろん完動してました。

〇〇一九発の寢台車、入線・発車定刻どおり。

切符は紙式を車両に乗る際に係員さんにプラスチックカードと交換してもらう方式です（降りる前にまた元の紙に交換）

寢台は三段が進行方向直角に対面で並ぶ六人ユニットが一区画。なので狭い間の空間は長距離客ならではのトランクその他で文字通り足の踏み場も無くなるほどです。

ここか、とカードに記された寢台を見れば寝具は乱れ、小テーブルには空きペットボトルとおやつのみまわりの種（これは中国のおやつ定番。アメリカでも

よく観るのですがなぜか日本でだけ定着しませんね。落花生あれだけ好きなんだから別に殻付きが障害だとも思えないのですが）の殻が散乱……一応お掃除は来られるのですが「ゴミありませんか」式のでかいのだけ取っててくれる程度で、つまりこの……

シーツと枕あつたかい……

なんか嗅いだこと無い匂いするんですけど……

ただわたしライフヒストリ的に「よくわからないところ」で寝る」のに慣れてましてこのぐらいなら平気です。若かりし頃は大垣夜行も乗ったものさ。横になれるだけ幸せ。

ただ、神経質な方には……ってそんな人そもそも外国で寝台車とか選びませんよ・ねー。オリエント急行でもなきや。

寝台車内、一応禁煙ではあるのですがデツキOKで、車両間扉も新幹線のような自動でも無ければナチュラルオートクローザー的仕掛けがあるわけでも無く開けたら開けっ放し、タバコの苦手な深尾先生が一晩中「もう乗らん!!」と激怒。

で、安富先生も起き出して、「老子と数学の関係

について」なんて難しい本を読みつつデッキからの煙の流入を防ぐためドアマンと化しており先生寝ないんですかと問えば

「線路が悪い……」

と苦り切った顔。確かに時折、「ガーン！」とえらい音がしてそこそこのシヨックが来るんです。僕はガスカ寝てたのですが、確かに考えてみれば日本で鉄道車両に乗ってて「ガーン！」とシヨックが来る、なんてことは事故以外のシチュエーションではありえず、衝撃そのものより不安で飛び起きるのも理にかなって  
ますね。

昔のことを語ってくださったところ、社会主義国時代の線路は丁寧に作られていたからか、また車速もおそらく六〇キロ程度で非常に乗り心地がよく、当時不眠に悩まされていた先生も「この列車に乗るとぐっすり眠れる」ほどだったとか。

時間はかかるがそれが列車旅の風情つてもんですよね。

その頃頻繁に利用した列車で、食堂車のコックの丁さんと仲良くなったりしますと、その丁さん当然鉄道員で切符の手配に奔走してくれたり、例の婚禮イベントの時にはわざわざ駆け付けてくれたりしたそうです。

システムがゆるくてボコボコ穴が開いてる部分を人間が埋める、本来はそのぐらいが心地よい社会なのかもしれません。

だってスタバとかだつてあれ同じ味がする自販機が並んでて同じ内装の椅子机があつて店員居なければ、そんなに居心地が……

……いやあひよつとすると流行るかしらんなその  
お店日本じゃ……

このT42という列車は山西省を突っ切つて西から東へ北京めがけて走るのですが、寝込む前に暗い車窓

を見ますと先程も申しましたがどう考えても何も無い山間部に突然巨大な（豪華ではなく）駅舎が出現しその周りにわけがわからないほどの高層ビルがおっ立つかおっ立てられつつあり、

「先生あの街はどういう街なんですか」

「まあ炭鉱とか……あと不動産投資」

「こんなところ、ってついたら失礼ですけど、だって何も無いじゃないですか」

「バブルの時日本も同じだったでしょう」

「ああ」

チバリーヒルズ、懐かしいですなあ。

トマムリゾートのマンションを殴り合つて買つたりね。

お金は回そうと思えば回るんですよ、人夫雇つて穴掘つて土山作つてそれを飾つて、またそれ取り外して燃やして土山崩して穴を埋めて……を繰り返せば。ただその元になるお金をどつから持つてくんですか、つてだけで。

もちろん未来から先借りしてるわけです。

おそろしい話です。

出掛けに両先生の指示でありつたけの水ペットボト

ルをボストンとリュックに詰め込んできたのが功を奏  
しました、元々乾燥してる上に車両内はさらにカラカ  
ラで、夜中寝ぼけながら枕元ペットボトルをぐびぐび  
やること二度ほど。

もちろん寝台ですから車内販売などありませんし車  
両内自販機など夢のまた夢。

海外で長距離列車乗る時のお約束ごとかもしれませ  
んが、ここに記して注意を喚起。

● 北京点描

六時頃目を覚まして北京に近づくと山あいから平地、  
そう中原を燎原をひた走る感じになつてそれにともな  
つて車窓の風景も東海道新幹線で静岡とかああたり  
を走っている感じに。

若い『三国志』ファンの方には残念ですね、もうあ  
と二〇年早ければあの頃の雰囲気もだいぶ残つてて口

マンに酔えたんだらうと思います。いま静岡です。

時間もあるしつてことで安富先生と例の「現代日本の政治経済についての本」の打ち合わせなど。

しかし本当に安富先生は博覧強記で、「あれがこうであるときこうであるの本にこんなこと書いてあつてあの人はこう考えてて……」と授業を持てば第一回目は立錐の余地もない超人気東大教授の講義独り占めという感じの贅沢タイムでした。

まとめるのが大変。

ある時webに「大人のADHDチェック」てのがあ

りまして三〇の質問に応えてあなたの注意欠陥・多動性障害度を計りますすでもものなんですけど

「あれやりました？」

「やりました、僕二五もあつて真っ青」

「私フルマーク！」

「スゲー!!」

あれ近年病気扱いされてますけど上手く活用すると東大教授になれますよ。

先生がよくおっしゃる「東大の恐ろしさ」の例で、試験をしますと授業に全く来てない生徒が（参考書と

して示しておいた先生の著書などを読み込んで）満点完璧な答案を書いてくるそうです。

そんなことは原理的にありえない。一人の人間の思想を聞かされれば、頷くところもあればよくわからないところもあり、また自分の考えと違うところもあつて、それらを呻吟しながらまとめようとするのが人文系の試験答案のはずであり、つまり「満点」の解答が書けるといふのは自分の感覚や感情をいったん止め、安富歩になりきって思考の道筋を辿り直してそれを書き留める、という憑依現象のようなキモチワルイ所業なのです。

しかし「それがいい」とされる教育受けてきたんだからそうなりますわな。

最近はいぶ「それじゃマズイんじゃないか」という揺り戻しもあるそうですが、そういう真つ当な若者は相変わらず東大には来ない。

そんなことを聞いてますと、乗客の携帯テレビのニュースが漏れ聞こえ、新聞も売りにこられるので覗きます。「我らの海に日本の護衛艦が殴りこみに来た！」という一面で、後ほど日本でチェックしました。がなんの話題にもなつてなかつたので、たぶんでつち

上げとまでは言いませんがリアルタイムなフアクトを  
伝えたわけではなく資料映像使った特集記事の類だっ  
たのでしよう。

ま日本でもよくやりますけど。

でもその新聞を持ってきてくれた車掌さんなんだか  
売り子さんなんだかな若い女性は、我々がジャパニー  
ズだと見て取って「ニホンゴ、スコシダケ。イッテミ  
タイデス」とお愛想を言ってくれまして、これこのよ  
うに日中双方で「普通の人」の感覚というのは「ああ  
またやっとするわ」になりつつあるのかなあ、とも思  
います。

僕世界史的に明るいニュースだなと思っただけなのは例のシリア武力介入の時にオバミンがまた発狂して（あの人ヒステリーですよ、頑張つて抑えてますけど）

「ブツ潰す！」

言い出しましたらイラク戦争の時そのノリで超痛い目に遭ったイギリス人達が激怒してそれぞれの下院議員「いいかげんにしろ！」と突き上げてそれにキャメロンが腰を抜かして早々に

「いや今回ウチはちよつと」

とベタ降りして、あそこからダダ崩れになりましたよね。

あれつてとてもいいことだったと思うんです。（シリアにどう対応するかは別にして、意思決定として）

結局「わたし」ひとりひとりが選挙区の議員に脅しかけるしか無いですよ。「落とすぞ」と。小選挙区制つてぐわんぐわん政権つまり政策がスイングするので日本には向いてないんじゃないかという議論もあります。が、どんなシステムも慣れてしまえば有効活用の仕方がわかってくるつてもんでして。

尖閣の時もあれプロのアジアウオッチャーなら「あああのぐらいは」みたいな普通の話らしくて、中国対韓国だと漁民同士が刀振り回して殺し合いするそうです。

もちろん体当たりがええことではないですが、そう聞くと「位置づけ」ができますでしょう。「そのぐらいか」という。

最近のマスメディアはジャーナリズムを完全に放棄しているので、自分で情報集めないといけない。なんとすれば先にも述べましたが「だいたい何かかぽっかり落ちた情報」ってそれ情報ではない。意味も価値も

ない。判断を間違う、逆にしてしまう恐れがありますから。そんなものを脳に心に入れるのはむしろ有害です。

超めんどくさい世の中です。

中国に限らず世界中に友達を作って、肌触りのある感覚とか言葉とか、そういうものをできるだけ知っていききたいものです。

とかなんとか考えてますと〇八三〇定刻に北京西駅着。東アジア人は基本的に「鉄道」が好きなんじゃない

いかなあ。

北京西駅は巨大な駅舎の上に巨大な歴史建造物を模した楼閣が中央・左右と建っており、なかなか異様ながら威容です。

また文句ばっかり言うようですが京都駅はあれなんとかならんかったもんなんですかねえ。品川駅や大阪駅はあんなもんでええと思いますけど、京都ぐらいはこう……大仏型してるとか。それは奈良か。

あれ京都人にまかせたらあかんのですよあの人ら八〇〇年前の建物に住んでるので、数十年で取り壊すのがわかりきってるコンクリの建物とかなんの興味もな

いんで、あんなガラクタでいいんです、つていうかむしろサステナブルでない以上ガラクタの方が潔い、とかそういうメンタルがあるんですよあの街の人々は。

まあだからって東京の人に任せたらイラクの建築事務所に丸投げしてキモくて高価なもの造られるだけなんでどうにもなんないんですけどね。

なんか街に帰ってくると心がささくれ立ちますよ。

悪いのはこの灰色の空気だな。

涙目でマスクしながらタクシー乗り場に向かうと高

架下みたいないかにも排ガス籠もりそうなところにあつてさらに涙目で待つ。列は長いものの配車も多いので二〇分は待たなかつたかも。

先日一緒にお食事した夏明方先生の超豪華マンションにお邪魔してシャワーとスイカをいただいて人心地つかせてもらいました。一〇年前無理して三〇〇万で買ったマンションが今や三〇〇〇万だそうで、

「売ったらええですよん！」

「住むところ無いヨー（笑）」

とのこと。バブルですなあ。

先日泊まりましたホテル同様、西洋式の、ベッドルーム奥にそれぞれバスルームがあるタイプです。北京では高級邸宅はこうなるようです。日本人だと二世帯住宅でもなければきつとひとつにしてでかい湯船を導入するでしょうね。

奥さんはインテリ美人で娘さんは可愛らしい中学生、高校は来年アメリカ留学！

やっぱりなんかこう、中国人はバイタリテイありますなあ。なんだか「何が起きてても生きていける」をまづベースに考えてる気がします。日本人はまず「何も

起きない」をベースに考えるんですよね。どっちが正しいとか悪いとかではないんですが。

クルマの運転そのままだわ。

深尾先生はPCを借りてご自宅にSkypeで電話。すっかりSkypeは世界飛び回る人の必須アイテムになりました。

僕の友人もイタリアに留学した時、現地でプリペイド携帯とSIM買ったけど、結局日本との通話はほぼSkypeでチャージ余らせて持って帰ってきちやった、と言っていました。

お昼は夏先生ご一家と近所のシヨツピングセンター、  
これがなんと中国一巨大、すなわちユーラシア一巨大  
（北米大陸が含まれないところがミソ）なそれという  
ことで、日本で標準的に見られますヨーカドーとシネ  
コンのくつついたアレのね、ゆうに三倍ぐらいはあつ  
た。五倍あるかもしれぬ。いや、駐車場が平面で週  
にズラーツと並んでるので「広つ」と思ったのかもし  
れない。

とにかく向こうが霞んでました。

目指すお店は苗（ミャオ）族の貴州料理。貴州は中国南西部にあって少数民族の多く住む地方だそうです。

店内はその民族の伝統的な模様などで埋めつくされていて、確かに「漢族標準」ではない感じ。差別的な意味合いは全くないと前置きして韓国・日本も含めた「中華周辺圏」っぽい雰囲気、というところ怒られそうですね。

ひどい影響力だ（笑）

こちらのお店チェーン店だそうですが店員さんを現地から雇っている本物なのが売り物のひとつだそうです。

メニユーは、破竹、韓国のムー（ムク）みたいな寒天的食べ物、幅広の米麺、竹筒入りのおこわ、ネギを入れたチヂミ的なたぶん小麦粉の焼き物（これ系世界中にありますね）、メインは川魚（鯉系）の少し辛いお鍋と、あひるのスープ。

「南方少数民族の」と枕言葉がつくとエスニック系をご想像されると思いますが、あもちろん北京のシヨツピングセンターに入ってるわけですからアレنجじしてあるかもしれないませんが、どれも香味・塩加減ともあつさりしていて食べやすかったです。現地で食べてみたいな、と思いました。

締めが面白くて、豚肉の脂身で甘い餡を挟んで、それを（たぶん煮た時のソースを掛けた）ごはんの上に乗せたもので、ご当地でお祝いの時に食べるものだから。見た目が結構パンチ効いてるんですけど、豚肉と餡は意外に合いました。といっても「いつも食べたい！」という味わいではなく、祝膳というのはどこでもそういうものなのかな、とも。

食べてるとガラが溜まっていくのですが、以前は中国ではそういうのはテーブルにガンガン放置、つまり食後にテーブルが乱れている・汚れているほど盛り上

がっつたいい宴・食事の証、という文化があつたそうです、が、最近は何れも片付ける方向みたいですね。

日本で鍋物の時よく使われるあの銀色の金属製のガラ入れを道具屋筋で大量に仕入れて売り込んだらいかがでしょう。もちろん外国人多く来そうな店狙いで。

夏先生の学生さんと、先日も来られた王さんが合流。王さんは深尾先生のリクエストに応じてチャイナドレス。

元々あれは満州族の貴人の衣装で、スリットは乗馬の際、足が横に出せるように、そして下はズボン姿だ

ったそうです。それが辛亥革命後三〇年代に上海あたりでズボン無しでオシヤレに着こなす風が一気に流行って現代に至る。

ということと満州族の王さんが着るとセクシーというよりもカツコイイのです。寸胴・胴長・低頭身の本女性にこそ着物が似合うように。

席お隣で日本語の練習だつてんでいろいろお話したんですが、

「僕の祖母も戦争前に一時満洲行ってたんですよ、大連」

「おゝ大連とてもいいところですねゝ私も里が遼寧省なのですゝ」

「そうですかー。その頃は一面のコーリヤン畑とか言っていましたけど」

「昔に生まれたかったですねゝ」

「あそうか、百年前なら貴族ですね」

「フフフフ」

という、「前王朝の支配民族」なんて感覚はなかなか日本では味わえない。ちよつとドキツとしました。

「王」は漢族に立場逆転されてから改姓したもので、

元々は完顔阿骨打の「完顔」だそうです。満州族は変換表持つててみんな「元の姓」を知ってるそうですよ。

このへんが「ニューヨークにいろんな民族集まってる」というのとはまた違う景色です。

先日的高级店でのお茶サービスの際、深尾先生がお店の「お茶淹れセット」に一目惚れしたのですが、これどういうものかと言いますと、電気ケトルの台に注水用の蛇口が付いています。その蛇口はちょうどケトルの上に来るようになりまして、その下にチューブが長く繋がってて、これを任意のペットボトルに入れる。

台にはポンプが仕込んである。これでつまり、ケトルをセットしてボタン一つ押すと注水から沸騰まで手間いらず。

ペットボトルから直接注ぐのは格好悪いですし、さりとて日本式電気ポットのジャーツてのも風情が無い。さらに中国茶は小さな急須で何度も何度も淹れますから、ケトルをステーションに戻せば淹れてる間に次のお湯がチャージされて沸いている、というのは非常に都合がいいわけです。

先生が「これいいわね！」といえは王さんが「これ安いですよ、買って来ましょうか？」ということを買

つてきてくださったのです。確か日本円にすると二五〇〇円とかその程度。ステンレス製の電気ケトル付きです。さすがに安いですねえ。

さて満腹になつて王さんたちとは別れ、では我々は夜のワインパーティー買い出しに、おつとその前に現金をATMで、と安富先生がカードを突っ込むとそれつきりうんともすんとも言わないもちろんカードも返つてこない。

ギヤーツでことで深尾先生はもちろん夏先生も奥様も銀行窓口に掛けあつて一騒動。日本でそんなことに

なつたらATMの後ろに控えている遊弋おぼさんがすつ飛んできて平身低頭でATMに調整中の札が掛かつて赤いランプが回ってセコムが駆けつける……と思うのですが、「ちよつと待って」と言われて結構いつまでも放置されるなど、これはこれでなかなかドキドキしました。

昔、『パペポTV』で笑福亭鶴瓶さんが上岡龍太郎さんに

「君はなんでそんなオモロイことばかりにぶち当たらんや」

と聞かれて確か

「いや、待ち構えてたら来るんです」

みたいなお答えをされてたと思うのですが、安富先生はなにか指先から変な電波出しておもしろトラブルを吸い寄せてると思う。

さすがに北京の街中ですからなんとかかんとか無事カードは回収、地階の巨大スーパーマーケットに向かいます。奥様が案内を買って出てくださいました。

まず薬屋さんでおみやげの漢方薬。薬マニアの深尾先生によるとモノによつては抜群に効く薬がとても安

く手に入るそうで、確か竹かな、笹かな、のエキスを使った花粉症（アレルギー）のお薬を買ってらっしゃいました。

僕も爆発鼻炎持ちなのでチャレンジしようかな、とも思ったのですが、最近鼻炎爆発が起きるのはつまり免疫落ちてくたびれてる時なので、爆発起きたら寝こむ方がいいわ、と方針を転換しててですね。

まあ先生方は授業もセミナーも会議もイベントもあるから「ここ止めなあかん」という必要性が僕なんかとは段違いだと思うのですが。

「サロンパス」売ってるんですよもちろん久光製菓の本物。で、そのイメージキャラクターが「小S」さんてスレンダー美女で、面白い芸名だなー、と思ったのですがよく考えると日本にも「江頭2：50」みたいな素敵芸名たくさんありますよね。

ワインは安富先生の専門。オススメは「張裕」（チヤンユー）ワイン。張さんという方が調査の結果、煙台（大連の渤海湾向かい）がボルドーと気候・地質ともそっくりだと発見してそこでワイン造りを始めたそうです。ということで中国ワインの本家本元というべ

き存在で、実際その作品は本場欧州……って最近はそのような表現もしにくいですが、でも人気・評価とも高いそうです。

それをカゴに放り込んで、でリカーコーナーのお姉さんに「オススメは？」と尋ねてみるとリコメンドされたのはトップブランド、「長城」ワイン。ラベルの「GREAT WALL」の文字も誇らしげ。

あとで調べたのですが日本では宝酒造が入れてる一二〇〇円クラス一種なのですが、当然ながら北京では嫌ってほど種類ありました。

じゃまこれも一本、てことであとは珍しいノンアル

ビールとかいろいろ買って、肴はなんたつて北京ですから豚餃子、海老餃子、ゴマ団子など点心の冷凍食品を買い込みます。

あと亀ゼリー。

薬膳で有名な、スツポンの一種の亀の腹甲を粉にしたものに各種の生薬を混ぜ込んで固めた（元々持つてゐるタンパク質が熱すると固まるそうです）もので、こちらでは非常にメジャーで普通にザバザバ売ってるのです日本でいえば「たらみ」のフルーツゼリーぐらいの勢いで。

真つ黒です。

巨大な冷凍食品の棚がズツ・ラーツと並んでる様は  
ちよつとアメリカみたいでした。

土地があるつていいよね。

夏先生宅に引き返し、お茶などいただきつつ一服さ  
せてもらうとちようど時間もチエツクインの頃合いだ、  
ということでお暇しました。ありがとうございます。  
とても助かりました。ここでも西瓜とお茶を山のよう  
にいただきました。

## ●ダック&ワイン

タクシーの運転ちゃんに（観たこと無い僕のために）

「天安門の横を通ってくれ」と言いますと「混んでるからヤダ」って。それでも無理言って通ってもらいました。

改修中だったのですがもちろんその足下には観光客がわんさとおり、ここであんな大事件が起きたとは信じられません。

日本で言うとは皇居の周りを走っただけです。それでそれ  
で言うのもなんですが、随分と「中国」と聞いてイメ  
ージする建物や雰囲気がないのに……

「全部ぶっ壊した」

「そうなんですか」

「あの事件は指導部にとってもトラウマものなので、  
香港のデベロッパを入れてこの周り全部再開発とい  
う名の徹底した破壊を行った」

「なんと……」

辛いこと起きた時、その時そこにあつたもの全部無くしてしまいたいものですね。

中国はいつもこんな感じで、史上何度も全土で戦乱が吹き荒れたのと、王朝変わる時に徹底して一からやりかえるので、歴史的建造物とかがほとんど残つてないそうです。むしろその面では日本の方がいろいろあるほどだとか。

「北京」といえば日本の文化系少年少女にはその華やかで雄大な歴史・芸術・文化をもつていまも憧れの都

市のひとつであることは間違いない、と思うのですが、そのイメージを想起させてくれるものが少ないのは、少し残念でした。

もちろん街歩きの間時間が少なかつたのもありますが、でもロンドンでもパリでもそれこそソウルでも極端なことを言うのと空港降りた瞬間からその都市の「ああこれが」という個性を感じるものですが、北京にはそれが薄いのです。

「倫敦に行くぐらいなら北京へ行きたかった」と留学中東西の文化ギャップに悩んで下宿に引きこもった夏目漱石が、行く前からそんな風に言っているの

ですが、漱石先生が今の北京見られたらどう思われるのだろう。

……てな話をしますと王傑さんに真顔で

「北京にもいいところいっぱいありますよ！　ながたか

さん知らないだけ！　今度案内します！」

と叱られました。名刺をお渡しした時、僕の名刺「ながたかずひさ」と書いてあるものですから王さんはすつかり僕が「ながたか★ずひさ」だと思っっているのです。

ま、北京広いですからね。見えてないだけかもしれない

ず、またその無味無臭さこそが「世界の中心」 Ⅱ中華の証かもしれない。

天安門にもサンダルで行ける今日のお宿は高級飯店「MARIOTT」。もちろん今回もスイートにて、リビング・ダイニングを真ん中にベッドルーム二つ。僕（ゲスト）の方には円形ジャグジーまでも。でもこれも一人頭で割ると一万いかないのよ？

夕食の準備始めるまで時間があるのでプールへ行こう！と行って見たはいいものの、事前にプールがある

と聞いてたので水着は持って行つてたのですがキャツプが要ると。買うと\$3。五秒悩んで諦めました。そこまで水泳したくないやい、フン。

皆様もプール付き高級ホテル泊まる時はご用心。

王傑さんとも再見、早速深尾先生と共に予約注文しておいた今日のメイン料理を受け取りに向かわれました。

後で聞いた話ですがこの時、昔ながらの北京名物・壺入りヨーグルトを発見、みんなで食べて舌鼓を打つたそうです。屋台などで簡便に売られているもので、

日本で言う公園売りのアイスクリンとかあのあたりになるでしょうか。

それ食べてみたかったなあ。

僕は部屋で家電格闘役。またも立ちはだかるドイツの壁シーメンス。レンジどう使うかわからんですレンジが（笑）

物放り込んでスタートボタン押せばなんとかなるだろ、と思うでしょ？

スタートボタンが無いの。

全部そのモード（レンジとかヒーターとかコンベク

シヨンオーブンとか)を指定したボタンを押さないと  
いけなくて、まずどれがどれかアイコンなんでさっぱ  
わからん。あたりつけても今度は時間設定がテンキー  
とか無くて、もちろんですがダイヤルもシーソースイ  
ッチも無くて、わかんないのとか!!

おで家電メーカー出身だで!?

まこれは後回しにして、IHのコンロを動かしまし  
ようかね、ということこれがまたスタートボタンがわ  
からない。

ハーツ!

日本の家電だとあたりまえの、「スタートボタン」とか「メインスイッチ」とかって「これだけ押せばとにかく動く」という思想が無いんです。

結局これはボタンをポチポチ押していくと7セグ蛍光管の数字が1、2、3、4、5と上がっていったぶん5が最強なんだろうな、と思いますやんか。でもその次てのがあって、うる覚えなんですけど

「OK」

とかなんです。「High」とか「MAX」とか「FULL」とかじゃなくて。ほんでその時音変わるんですね明らかに。ところが日本のIHほどはパワー無いっぽくて、

しばらく見てもそれがマキシマムパワーかどうかかわからんのです。じゃ、ということが無難にその手前の5にすると（これがロータリーセレクトで行き過ぎると1に戻る）まったく火力が無くて、あこれは違うわ、たぶん「OK」がいいんだ……とかなんとかかんとか。

だからこのロジック、一旦覚えてしまえば日本風に、例えばウチのIHコンロで言いますと、「主電源を長押しで入れて」「使うコンロ口のスイッチを長押しで入れて」「目標火力まで>もしくは<のスイッチを押す」というステップを踏まなくても、「ボタンを5回押す」だけで目的が達せるわけで、まあ理にかなって

いると言えなくもな……言えるかー!!

ドイツ人め……

今のメルセデスご存知ですかATのセレクターレバーがステアリングコラムからちっちゃく生えているんですよ。そんなもん初見やわからんやないですか。敵のスパイに追われて通りがかつたセレブのクルマ奪つて美女と逃げる時に困るやないですか。

いいですか日本の戦車兵が精度と性能の悪い戦車のエンジンとトランスミッションに苦勞して職人芸的に操縦技術を習得している間、アメリカでは高卒の子が

父親のクルマ転がすように戦車を運転できるよう、戦車の方をATにしたんですよ。

そら同盟国戦争負けますわ。

知識知恵経験暗黙知を詰め込んだ「人間」というパッケージそのものが国家にとって唯一最大の資産であるという物理的眞実に目をつぶる全体主義など、滅ぶほかありません。

洗濯機もまたシーメンスなんですがこれは前回の格闘の記憶が残っているんでなんとか動きました。電子レンジの下にあっただすけどこれはホテルだからレ

イアウト上仕方なかったのか、それとも海外ではこんなこともあるのかしら？

ドラム式の場合乾燥機能付いてるので、入れれば乾いてでてくるわけで別に（床が濡れても大丈夫なように）水周りにある必要は無いといえれば無いんですけども。

とはいっても何度も試行錯誤を繰り返せばなんとなくロジックがわかってきて、少なくともお湯を沸かしたりレンジ温めはできるようになり、冷凍の水餃子を茹で上げたり、楊家溝から持ってきたポテチを温めた

り。

お仕事でPCに向かっていた安富先生もさっそく

「張裕」と「長城」と開け比べ……

「全然違う……」

「違いますね」

もちろん「張裕」のが美味しいです。いやもう明らかにモノが違う。似た値段か若干「長城」の方が高かったように思うのですが、

店員さんを悪く言うつもりはないのですがしかし、全世界を覆うこの「売れているもの↓いいもの」とい

う因果関係の方向の間違いはいいかげんにしていただきたい。

（個人的には両者には因果関係どころか相関関係もないと信じるのですが、それはラディカルすぎるから横に置くとして）

糸井重里という天才コピーライターは九〇年代後半に早くもこの馬鹿さ加減に気づきました。どんなコピーよりも

「いま一番売れてます」

が最強のコピーになった時、彼は「俺の出番はもう無い」と広告の世界から半隠居し、巨人戦を観まくった

り毎日釣りに行ったりしつつ「次の策」を練ったそう  
な。

もちろんその頃それに気づいた「わるいやつら」は  
「売れているように見せかける」ことで売るとい  
おぞましい作戦を使い出して現在でも絶賛通用中、いや  
むしろどんどん程度が酷くなる一方です。

それからもう二〇年が経とうとするのですから、も  
うそろそろ社会的コンセンサスとして、少なくとも、  
「『売れているもの』が『いいもの』とは限らない」  
ぐらいの知恵を共有してもよろしいのではないか。

だめだ。

もう楊家溝に帰りた。

と落ち込んでますと深尾先生と王さんがご帰還、途中合流の清華大学の王中忱先生もご一緒です。王先生は昔日本に留学され、岩手大学で働かれたこともあり日本語は大変お上手です。柔和な眼差しと物腰は、「大人」という単語を思い起こします。

さあパーティーだー！

というところで、昔岡先生がこちらのTV番組で一

緒になったというディレクター氏が登場、すぐお帰りになりましたが「来たよ」と聞けば顔だけでも出す、これぞ中国風。最近ではだいたいぶ無くなりつつあるそうですが、以前は「仕事なんかより友達の方が大事だろ」というきわめて常識的な判断で人々が動いていたそうです。

今は北京の渋滞のドキュメンタリーを撮っておられるそうなのですが、いちいち公安の許可が必要でなかなか捗らない、とこぼしておられました。

さてお三人さんにお持ち帰りいただいた本日の主役

は北京名物・北京ダック。テイクアウト専門で人気のお店が近くにあるそうで、そちらから丸々一羽分。巻き野菜に薄餅、タレ、薬味もあり余るほどたっぷり。もちろん味の方は言うことありませんでした。皮パリツと身は味わい深く、薄餅がまたいいお味で。タレも三種類ぐらいあつてそれぞれ風味が違う。何入ってるのかわからないのですがさっぱり爽やかなのがあつて、それが気に入りました。柑橘じゃないしな……なんだろう？

丸一羽なので骨も貰えます。早速王さんがスープ仕立てに……って塩がない！

旅には塩と洗剤が必要です。

安富先生が「張裕」ばっかりぱつかばか空けるので「長城」が余り気味だったり、日本の近現代文学にも造詣の深い（もちろん僕なんか全裸で絶叫しながら逃げ出すハイレベル）王先生のお話が大変興味深かったり、北京人の王さんにもシーメンスの家電は理解不能らしくいちいち僕が操作したり、食後のお茶は例のマシンを使おう、と出してみたのですがこれはペットボトルに給水チューブ突っ込んで初めて高い威力を発

揮するものでして、手頃なペットボトルが無い。てなことでも普通にティーポッドで淹れていただきました。お茶請けは日本から手土産用に持ってきてなぜか余つてしまった阪大サブレ。

またそれもよし。

楽しい時間はあつという間、夜も更け王先生を地下鉄まで送りに深尾先生・王さんと外に出ます。

で、お送りしたあと深尾先生が

「あつ、ここに『GIORDANO』がある！ 服買いましようながたさん！」

「えーっ」

てなことで楊家溝以来の懸案が閉店間際のカジュアル衣料のお店で解決。

何十年ぶりかわからない着せ替え人形状態を経て買ったのはTシャツ三枚にポロシャツ風二枚に普通のシャツ一枚に短パン一本ズボン二本……で九〇八元（当時一万八千円）。ここはカードで、と出すと暗証番号押す機械を手渡され。

最近の海外ではカードでPINコードと言われる暗証番号入力させられることが多いそうです。

キヤツシユカードのそれは覚えていてもクレジットカードのは設定したことすら覚えてない方も多いのではないでしようか。海外旅行の前には一度ご確認を。（カード会社のMEMOでチェックできます。忘れてたらそこから変更の手続きも可能です）

「なんだったかなー……」と思いつながらこれかな、これかな、と二回間違えてラストチャンス、まさかこれか？が通つて胸を撫で下ろしました。

折角のお二人のセレクションを無駄にするところでしたわ。

でも服選んでもらうのつていいですよ。買った服は特にシャツは色も柄も形も自分では買わなそうなのばかりでした。『GIORDANO』（ジオルダノ）は香港のブランドで世界で人気、日本にもありますが東京中心、品揃えもWED覗きますとわりと若者向け。北京のお店はもうちよい大人（僕、四〇前後）でもいけそうなスタンダードな色柄が多かったです。値段お手頃なだけじゃなく、型紙がいいのか素材がいいのか、とても着心地のいい服です。

さてそんなことしてますと王さん帰れなくなつたので、しかし寝室は二つ、ここはレデーファーストで、と言つたのですが頑として聞き入れて貰えず本を読みながらソファで寝ると。

確かに大人が横にゴロゴロ転がれるような大ソファで、気持ちよさそうだったので強くは言わず僕も寝室へ引つ込んで円形ジャグジー。

ああ極楽……

さっぱりだけなら夏先生宅でさせてもらつたのですが、やっぱり日本人は「お湯に浸かる」とフリーズドライ味噌汁のように生き返りませんな。

翌朝は五時起き予定、iPhoneをセットした瞬間大爆睡。寝台車の疲れがわりとあつたみたいで……

●嗚呼懐かしのKIX

五時に目覚ましが鳴って眠い目擦りながら荷物パツキング、服ってかさばりますねっというか買ひすぎです。

私ここでポカしちやったのが例のお茶淹れ電気ケトル、これをステーションだけ箱に詰めてケトルを流し

台のところ忘れてしまったんです。前日のお茶の時に、あ、これ使わないから直しとこうつてステーションだけ元の箱に戻して朝そのまま荷物に放り込んでしまい……失敗失敗。

王さんと両先生も起き出してみんな寝ぼけ眼で右往左往しながら荷物を詰めたり、王さんが北京ダック・スープを温め直してくれてそれをぐびぐび頂いたり、冷凍庫を開けて餃子の残りを王さんに押し付けて、冷蔵庫を開けると……亀ゼリー！

こういうのが得意な深尾先生以外三人は目を白黒さ

せながら押し込みました。

薬でした。

あれですね、ユンケルとか飲んだと思えば。

植物性油脂クリームとかガムシロップとかでまろやかに……されるともつと辛いか。

よく知られた話ですが大抵の国の人々にとって日本の朝定食で生卵をそのままサーブされるなど拷問以外の何物でもなく、そう考えるとおかしなものですね食習慣って。

王さんとは「また大阪に里帰りしてください」「北

京にもゆつくり」と言い合つて別れタクシーで北京空港に向かう。

今日の空気は朝早いこともあつてか「若干マシ」という感じで、青くは無いけど空も見える。

この時間でも高速は結構な流れで、降り場付近は渋滞模様。まずはチェックイン、てことで航空会社のカウンタ―に並んだんですがなかなか列はさばかれず特に一つ前の組が待てど暮らせど解決しない。見かねた深尾先生が口を挟むと、どうやらその人達は別の空港から振替でここで乗り継いで関空を目指すそうなのですが、荷物は北京では降ろさず別便で直接関空へ行く

と。だから荷物は無いんだ、というのが係員に理解して貰えないそうです。

なんのこつちや。

そんなん別に係員的には「ああそうですか」でするーすればいいんじゃないですかね、それともチエツクイン担当りの責任ロジックつてもんがあるのでしょうか。

でそのお客さん達も「航空会社に問い合わせてくれ」などと言ってるみたいですがラチが開かない。

しかしそこはさすが深尾先生、デイベートと特売で鍛えた浪速主婦の「有無を言わせない力」を發揮して

ラッシュを掛けるとその迫力に気圧されたかしぶしぶ  
事態が進展しました。

まくしたてるぐらいで進展する事態ならまくしたて  
られない前に進展させないよまつたく。

ということで一息つきに入ったCoffeeShopで出まし  
た

「あれは幹部の息子や」。

久しぶりのちゃんとしたコーヒーがとても美味しか  
ったです。

やはり中国はお茶文化圏であり、珈琲文化的には日

本の二〇年前みたいな感じ。ネスレのインスタント（最近名前変えたそうですね）出しときや文句ねーだろ、みたいなの。高級ホテルでも。部屋置きじゃなくてレストランでの朝食でも。

出国審査を終えておみやげもの屋さんをぶらぶら。おばあちゃんに扇子、あと母、弟、いつも海外土産くれる友人にネタ的なもの……が、あんまり無いんですよ。真面目なグッズばかりで。紅衛兵毛語録をネタ扱いするときはさすがに叱られそうだし。

パンダのマグネットと、手毬型キーホルダーと、太

極拳パンダTシャツの三点を選んで好きなものから取って行ってもらおう方式にしました。キレが無くてすいません。

とかなんとかのんびりしてたらいつのまにやら搭乗時間締め切りギリギリになっちゃって、最後に取り込みました。よく考えれば喫茶店でものんびりしてたんで、二回ものんびりすれば時間経ちますよね。

無事定刻発、もちろんKIX行きですから機内には日本人の日本語も聞こえてきてなんだか懐かしい。

軽食はおかゆとオムレツがセレクトダブル。行き同様、とても美味しかったです。

機内では「億劫」「憑依」「偽装」「ひきこもり」についての議論。ほらあのユング心理学の四類型ありますやんか思考・感情・感覚・直観の。あれの新型みたいな感じで、いろいろ軸を切ったりベクトルを変えたりして遊んでました。きつと安富先生が理論を完成させてババーンと打ち出してくださいさるでしょう。

そんなこんなで関空着。

飛行機を出てボーディング・ブリッジを歩いてる間からもう、もう 아이폰の電源を震える手で入れて「au LTE」の輝かしい文字を見てtwitterの更新を…

ほんとうに中毒患者です。

八日分びやーと出てきて苦笑。

怖い税関は（なんで怖がる）先生方にくつついていくと「大学の教員です」「どうぞー！」総スルーでした。

機内が軽食だったこともあってしつかり食べていく

か、ということとで関空内の回転寿司屋さんに駆け込  
んで注文するする。

白米・鮮魚・うどん・出汁・天ぷら・ガリ・わさ  
び・味噌そして醤油。すべてがワンダフル！

「普段食べてる食べ物は何だかんだと言っていたの  
に」

「めっちゃ注文してしまいますね」

人間そんなもんです。

日本食サイコー。

僕お寿司そんなにコダワリないんですけど、こうし  
た機会にいただいてみれば確かに「日本」がたくさん

詰め込まれたメニューだな、と思いました。回転なら特に文化的なものまで含めて。

僕がパリ・ロンドン八日間というはじめてのかいがいひとりたびに行つた際、伊丹に着いてまず思つたのが「うどん食べたい」でした。

関西人は出汁が産湯ですから。

外に出ると猛烈に暑い。

このモワツと蒸す感じが、この……

北摂方面のリムジンバスを待つ両先生に深々とお礼

をして別れ、僕はJRの快速・普通を乗継ぎ最後はいつもなら徒歩一五分の道のりを暑さに耐え切れずタクシー使用。

自宅に辿り着いてクーラー全開、なんと心地よいことでしょう（笑）

遠い土地から帰ってくるといつも思うんですけど大阪の気候って結構キツイですよ。なんか曰く言い難いんですけど、良くも悪くも空気の入れ替わりが毎日極端にあって、つまり外でずっと生活してるみたいない環境の変化の激しさがあります。さつき言ったパリか

ら帰ってきた時も、真冬一月だったんですけど、伊丹の外出た瞬間「しばれる！」とか思いましたからね。冬の欧州から帰ってきて、ですよ。

まあしかし住めば都です。

帰ってきた以上はうどんだってホルモンだって『天下一品』のラーメンだって食べ放題。

大阪最高。

あいや『天一』は京都が本店……

というようなことが確認できたのも、長旅のおかげです。他のところを見ると、今いるところの魅力を再

確認できる。これこそが旅の楽しみの最後を飾るドル  
チエですよ。

とてもとても豊かな、中国・黄土高原（および北  
京）旅行でした。

## ■あとかぎ

苦心したおみやげは案の定渋い反応を引き起こし、なんばまで南海の鉄人28号で出て「蓬莱」の豚まん買って帰った方がよかつたかと後悔しました。

ウチのねえ、家族ねえ、お土産に超冷淡なんですよ昔っから。

理由わかんないんすけど。

だからみんなで旅行行ったりすると僕が土産に全く興味示さないの見て「買って帰らないの？」とか心配

してくれるんですけど、買っても喜ばないんで、とも答えられないのでヘラヘラ笑って誤魔化してます。

だから僕、人から旅行土産貰ったら、たとえそれがなんの興味もないものでも過剰に喜ぶことにしてるんです。

その気持ちさが、気持ちさが嬉しいから！

それはともかく写真の整理でもするかとPCに取り込んでサムネイル一覧を見れば、写真として美しいものはただの一枚として無く資料映像みたいなものばかり。折角のツァイス・レンズが涙で曇っています。

ごめん、RX100よ。

僕はカメラが好きなんだ、写真には興味無いんだ。

八日も日本を離れば何か変わったことが起きてるかと思えば別にそんなことは何もなく、翌日にはいつもの散歩道を歩いていつものコーヒーショップでいつものブレンドM二五〇円を啜りながらいつものような本を読む、いつもの毎日が始まりました。

僕自身にも別に大きな変化があったわけではありませんがしかし、ものの見方はすこしだけ、変わったよ

うな気がします。

本編にも書きましたが、僕らは神様ではないので世界全体をそのままに「見る」ことなど不可能で、どうしても狭いスポットライトを当てて見えた部分だけを見て、「そんなものか」と思っています。でも、身心どちらかあるいは両方が遠目の旅に出ると、そこからまったく遠いところにポツ、とライトが灯って、普段全然知らない世界の「ある部分」が見える。

その瞬間、そこだけじゃなくて、いつも観てるところとを繋いだ見てない見えてない残りの部分にも想像

が結構ついて、もちろん間違ってるかもしれませんが、ものの見方が変わる。

それが楽しい。

なおこの書名は、いやしくも紀行を描くなら同郷の大先輩として敬愛する司馬遼太郎先生の『街道をゆく』のような逸品を、と思いつつ筆を進めてみればいつのまにか、酒呑んで鉄道オタクっぷりを発揮してあとガラガラしてるだけの内田百閒先生『阿房列車』のようになってしまうので混ぜさせていただきました。両大人に伏してお許しを乞いたい。

私の筆遣い上、大幅に戯画化して描かせていただきましたが安富先生は本当に頭がよくて（あたりまえですが）まことにオシャレな浪速のマイケル・ジャクソンであり、深尾先生は愛情と純情と感情が過剰な、四百人の卒業生に慕われる「おかあちゃん」です。両先生に誘っていただかなければこんな貴重な経験はできず、感謝の言葉を繰り返させていただきます。

王傑さん松永さん王先生夏先生はじめ旅で知り合った皆さんにも様々なお話をしていたできとても勉強になりました。また、言葉というコミュニケーションツ

ールをほぼ失った僕にいつも丁寧に接していただきまして、「優しさ」とはこういうものだと思いましたが。

それから、言わずもがなですが、ホスト・ファミリの皆さん。知恵さん、ルオリンさん、お兄さん、ファミリーとミイファミリー。

実はこのすぐあとの冬、一二月末に、その知恵さんが急逝されたのです。突然の悲報でお付き合いの長い両先生はもとより、僕も王さんも驚くばかりで言葉がありませんでした。

まだ五〇代半ば、孫も小さくこれから楽しみなこと  
がたくさんあるタイミングで、我々やご家族より誰よ  
り、ご本人が一番悔しい、残念だ、と思われます、が、  
こればかりは天の思し召し。私達にはどうすることも  
できません。

でもあの山の上の、いつも天から光が降り注ぎ、愛  
する馴染みの人々を見守り、そして愛してくれた親兄  
弟祖父母のいるお墓で眠りにつけるのかと思うと、こ  
んな言い方はおかしいかもしれませんが、すこし羨ま  
しいです。

でも、早いですよね。

知恵さん、謝謝。また知恵さんの絶妙な味加減の料理を、お腹いっぱい食べたかったです。残念、一期一会。

私達はもうすこし、旅をします。

## ■ おくづけ

『バ街道 黄土高原をゆく』 (Kindle版)

作者 ながたかずひさ

発行日 2014.1.25

mail nagata@mti.biglobe.ne.jp

web <http://rakken.net/>

twitter KazuhisaNagata

※ 文中間違いがありましたら全て僕の見・聞・覚え・調べ・書き間違いです。どうぞご容赦ください。



**Fool Road #1 Walking Along Loess Plateau  
Powered by Kazuhisa Nagata**